

# 調査結果の分析 一般区民調査

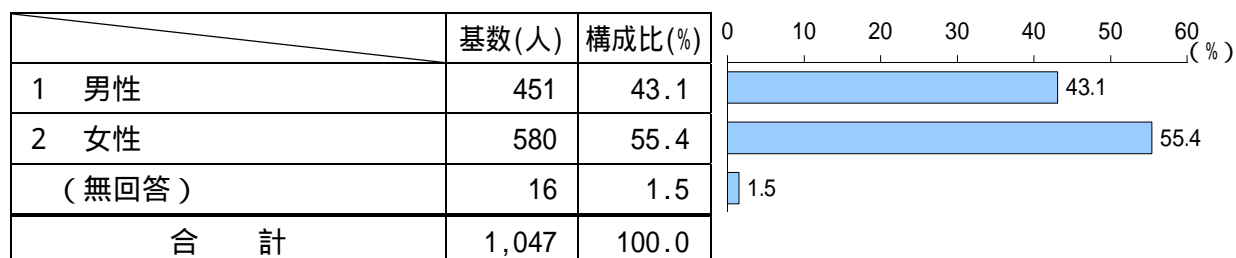
## < 調査実施の概要 >

調査地域	江東区内全域
調査方法 調査期間	郵送法（郵送配付 郵送回収）平成19年9月28日（金）～10月19日（金）
標本数	2,100人
有効回収数	1,047人
有効回収率	49.9%

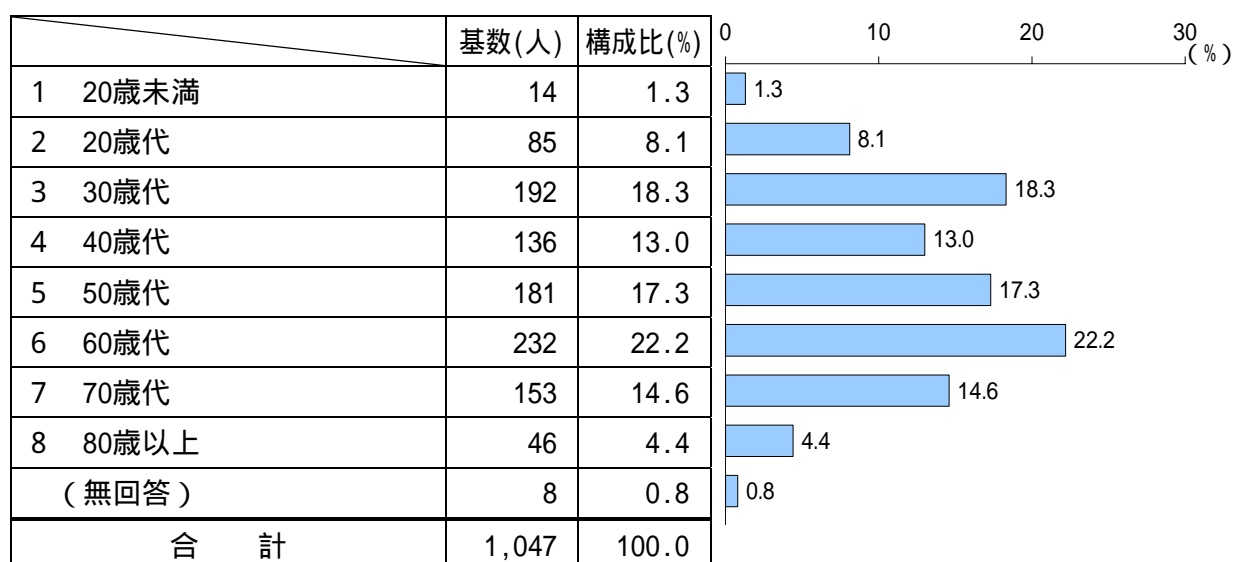
## 1 基本的な属性について

## (1) 基本的な属性

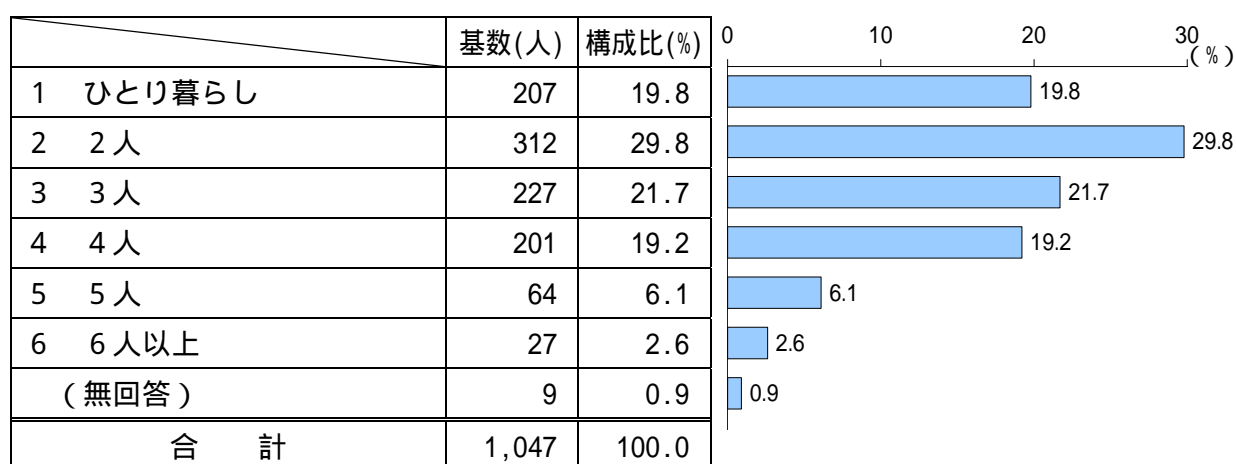
## 性別



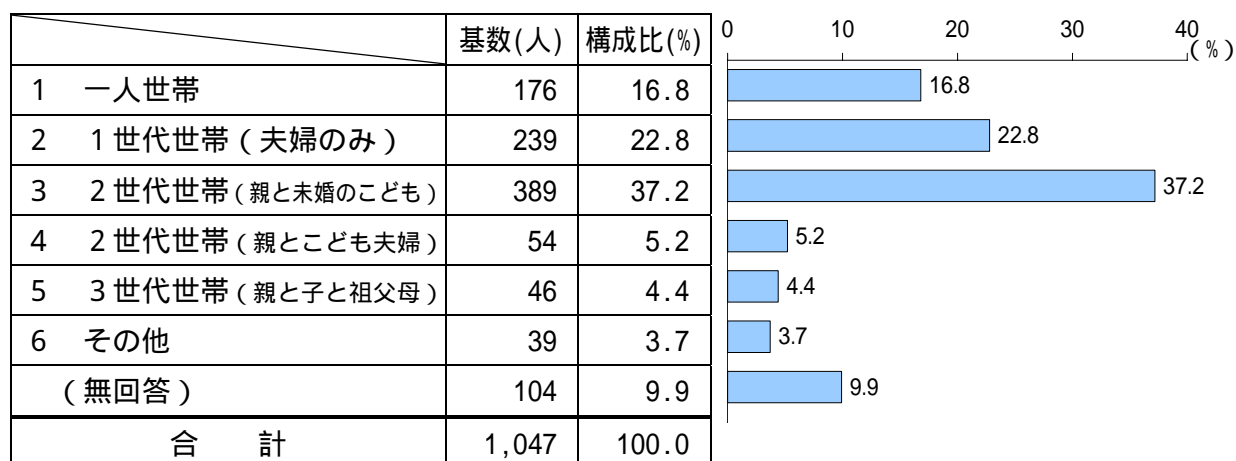
## 年齢別



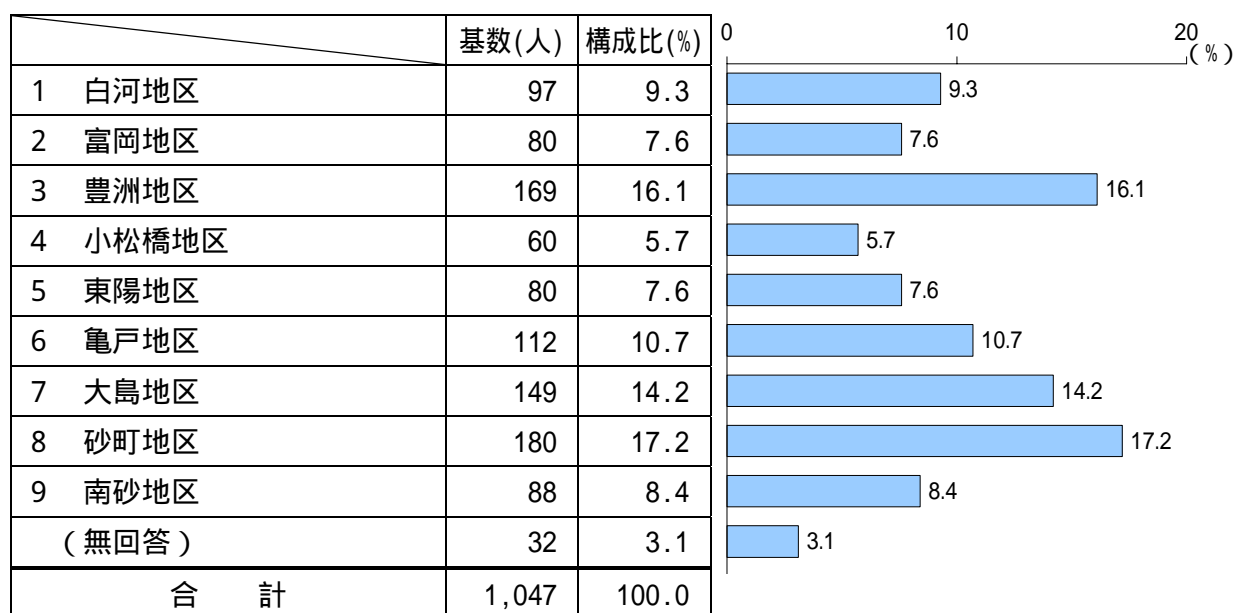
## 家族人数



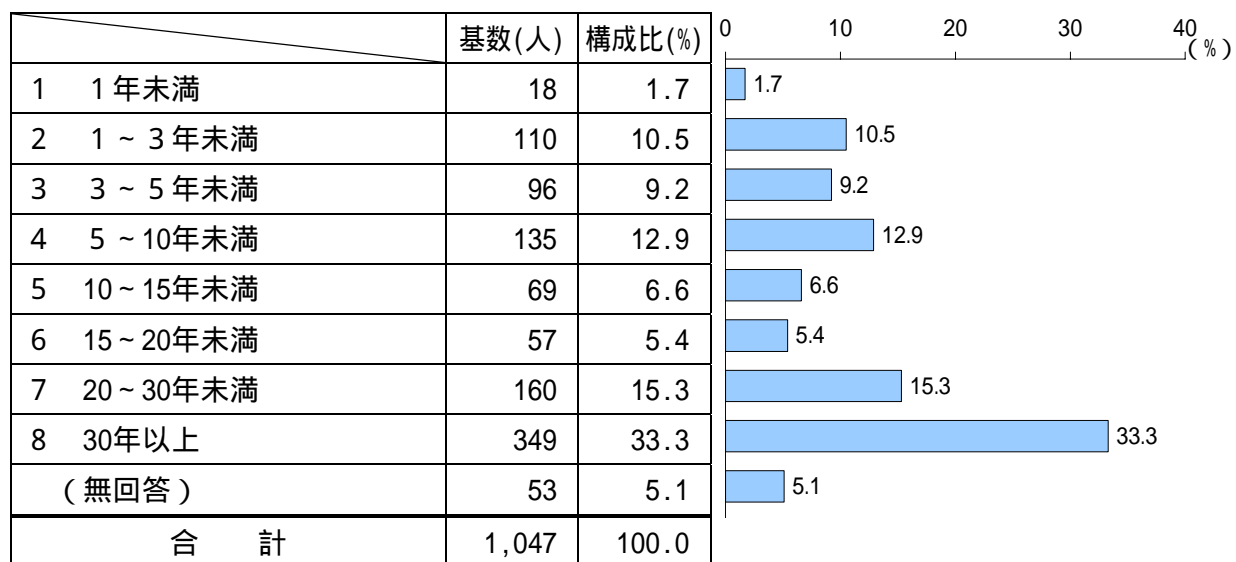
### 家族構成



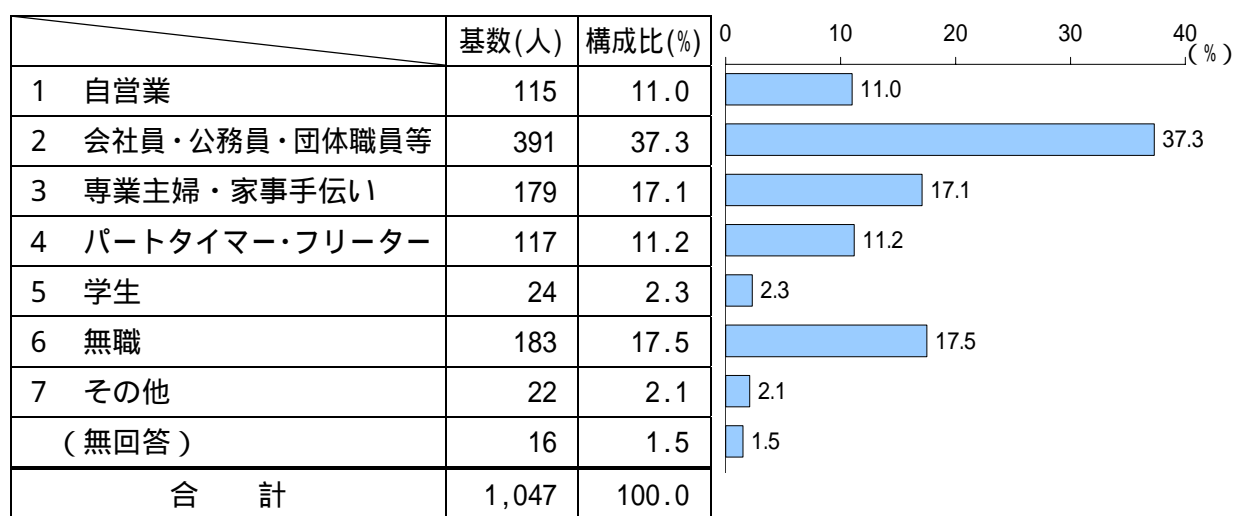
### 居住地区



### 居住年数



## 職業



(2) 身長・体重・腹囲

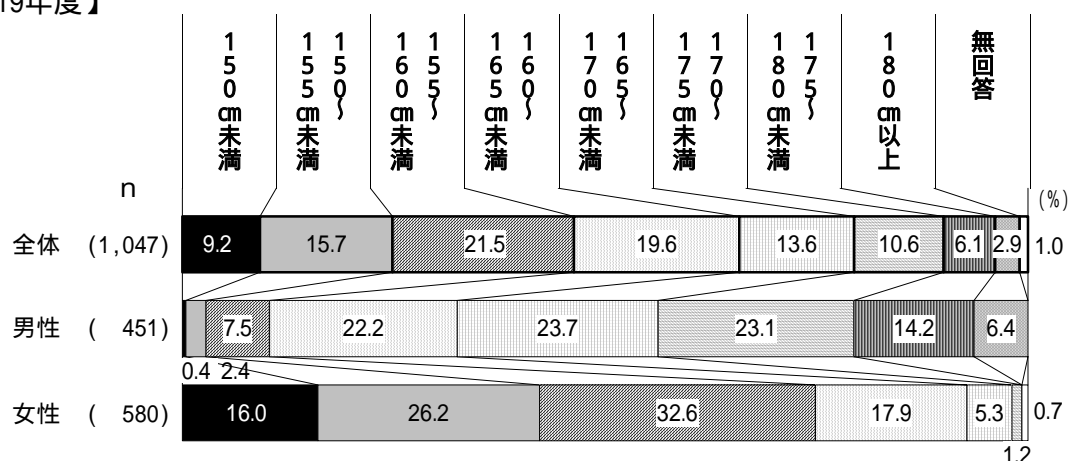
身長

平均身長は160.9cm

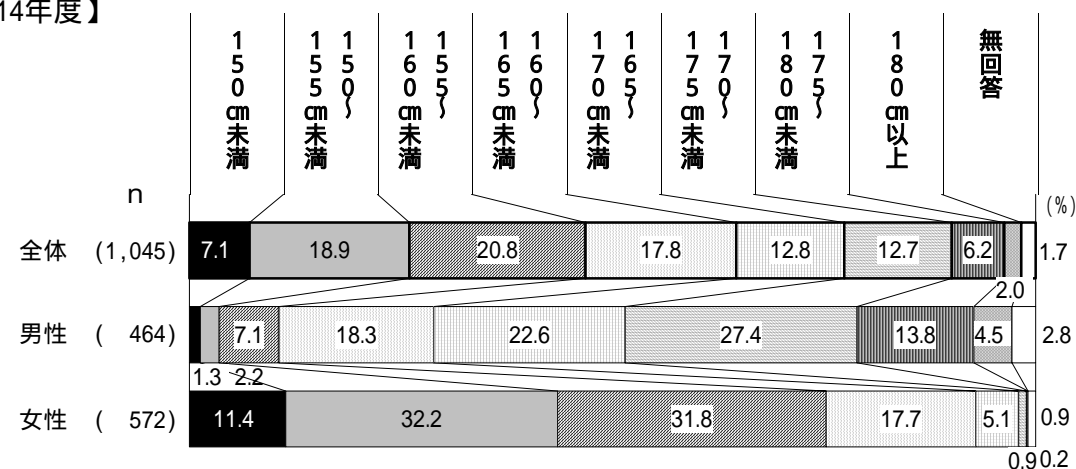
問6 あなたのおよその身長と体重、腹囲を整数でご記入ください。ただし、不明の場合は結構です。

<図表 - 1 - 1> 身長

【平成19年度】



【平成14年度】



身長は、平均身長が160.9cm で、構成比は「155～160cm未満」(21.5%)、「160～165cm未満」(19.6%)がそれぞれ2割前後で高くなっている。

性別で見ると、男性の平均身長は168.1cm で、女性の平均身長は155.2cm である。従って、男女の差は12.9cm である。また、構成比で見ると、男性では、「165～170cm未満」と「170～175cm未満」が2割台半ばで、「160～165cm 未満」も2割を超えている。一方、女性では、「155～160cm 未満」が3割を超え最も高く、「150～155cm 未満」が2割台半ばとなっている。

平成14年度と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。また、性別では女性の「150～155cm 未満」が6ポイント減少し、逆に、「150cm 未満」が5ポイント増加している。(図表 - 1 - 1)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 2 >

〔平均身長〕

( cm )

	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	<u>160.9</u>	164.0	166.0	164.2	163.7	161.3	159.5	155.6	150.5
男性	<u>168.1</u>	172.0	173.2	172.4	171.8	168.2	166.2	162.0	157.7
女性	<u>155.2</u>	159.0	159.8	158.0	158.2	156.1	153.3	150.4	146.6

「全体」には、太字で下線を施している。

男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

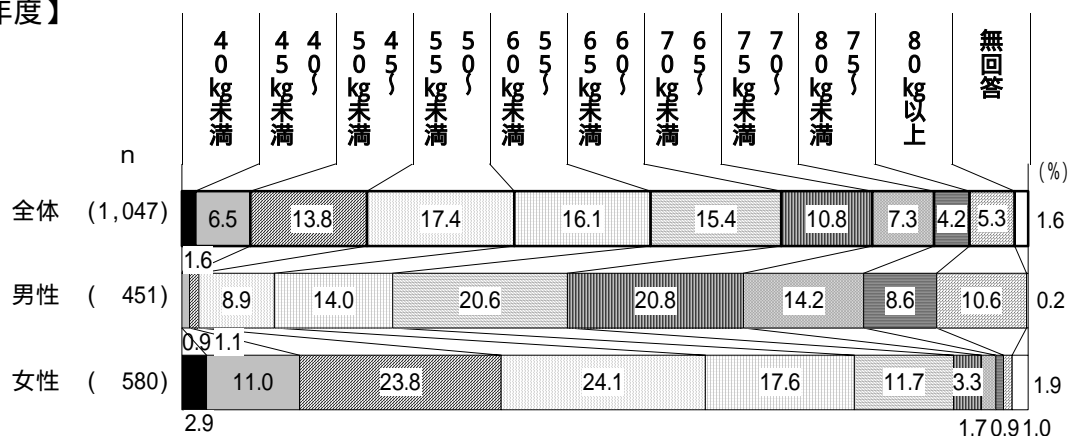
男性の平均身長は、20歳代で173.2cm、30歳代で172.4cmとなっており、それ以降年齢が上がるほど平均身長は低くなる。また、高低差は20歳代と70歳代で11.2cmである。一方、女性の平均身長は、男性と同様20歳代で159.8cmと最も高く、30歳（158.0cm）～40歳代（158.2cm）が158cm台で、50歳以上では、年齢が上がるごとに約3cmから4cmずつ低くなる。なお、高低差は20歳代と70歳代で9.4cmとなっている。（図表 - 1 - 2）

体重

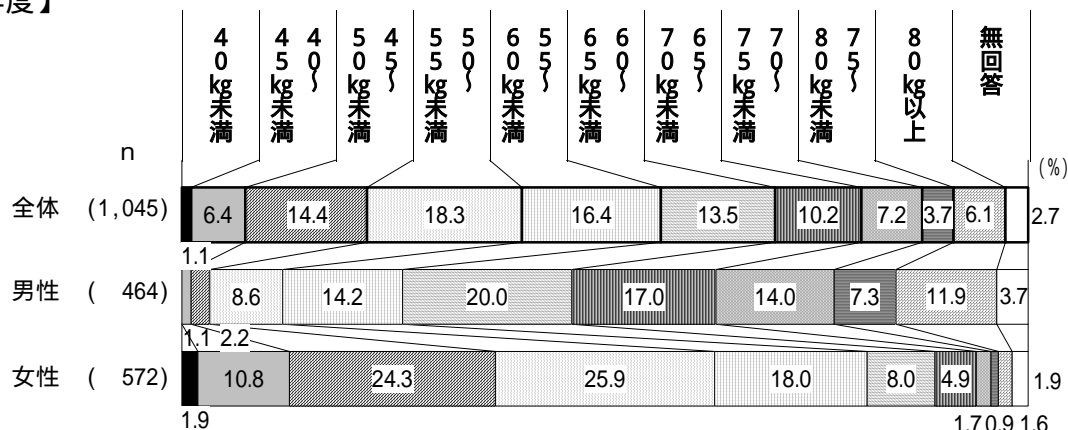
平均体重は58.7kg

< 図表 - 1 - 3 > 体重

【平成19年度】



【平成14年度】



体重は、平均体重が58.7kgで、構成比は「50～55kg未満」(17.4%)が約2割で最も高く、次いで、「55～60kg未満」(16.1%)と「60～65kg未満」(15.4%)が1割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性の平均体重は66.5kgで、女性の平均体重は52.5kgである。従って、男女の差が14.0kgある。構成比で見ると、男性は「60～65kg未満」と「65～70kg未満」が2割で高く、一方、女性は「45～50kg未満」と「50～55kg未満」が2割台半ばとなっている。

平成14年度と比較すると、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。(図表 - 1 - 3)

【性/年齢別】

< 図表 - 1 - 4 >

〔平均体重〕

(kg)

	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	<u>58.7</u>	<u>53.6</u>	<u>60.0</u>	<u>59.9</u>	<u>60.4</u>	<u>60.9</u>	<u>58.7</u>	<u>55.8</u>	<u>47.7</u>
男性	<u>66.5</u>	61.4	69.9	70.5	69.5	68.3	65.3	60.5	53.1
女性	<u>52.5</u>	48.8	51.4	51.7	54.3	55.1	52.6	52.3	44.5

「全体」には、太字で下線を施している。

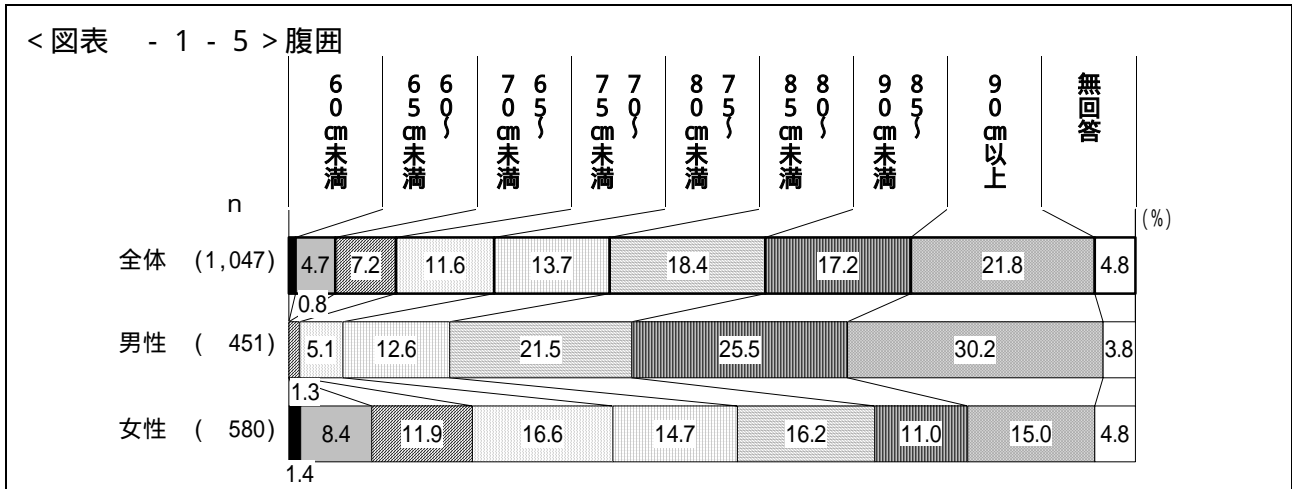
男女ともに「20歳未満」と「80歳以上」は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

男性の平均体重は、30歳代(70.5kg)が最も重く、それ以降年齢が上がるほど減少し、高低差は30歳代と70歳代で10.0kgとなっている。一方、女性の平均体重は、50歳代(55.1kg)が最も重く、次いで、40歳代(54.3kg)となっている。また、高低差は20歳代と50歳代で3.7kgとなっている。

(図表 - 1 - 4)

腹囲

平均腹囲は、男性86.1cm、女性77.8cm



腹囲は、全体の平均腹囲が81.5cmで、構成比は「90cm以上」(21.8%)が2割を超える。

性別で見ると、男性の平均腹囲は86.1cmで、女性の平均腹囲は77.8cmである。構成比で見ると、男性は「90cm以上」が3割で最も高く、次いで、「85～90cm未満」が2割台半ばとなっている。これら2つを合わせると、「85cm以上」が5割台半ばである。一方、女性は「70～75cm未満」、「75～80cm未満」、「80～85cm未満」、「90cm以上」がそれぞれ1割台半ばとなっている。(図表 - 1 - 5)

(参考) メタボリックシンドロームの診断基準

< 必須項目 > 内臓脂肪蓄積	《ウエスト周囲径》 男性 85cm 以上 女性 90cm 以上 (内臓脂肪面積 男女とも 100 cm <sup>2</sup> 以上 に相当)	
	+	
< 選択項目 > これらの項目のうち 2 項目以上	トリグリセライド値 150mg/dℓ以上	かつ/または HDL コレステロール値 40mg/dℓ未満
	収縮期(最大) 血圧 130mmHg 以上	かつ/または 拡張期(最小) 血圧 85mmHg 以上
	空腹時高血糖 110mg/dℓ以上	

< 日本動脈硬化学会、日本糖尿病学会、日本高血圧学会、日本肥満学会、日本循環器学会、日本腎臓病学会、日本血栓止血学会、日本内科学会：2005 >

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 6 >

〔平均腹囲〕

( cm )

	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	81.5	68.3	77.3	78.7	79.3	81.9	84.7	85.3	80.8
男性	86.1	80.0	81.8	86.2	85.5	86.7	87.6	86.8	82.7
女性	77.8	62.5	73.3	73.2	74.8	78.1	81.7	84.3	79.2

「全体」には、太字で下線を施している。

男女ともに「20歳未満」と「80歳以上」は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

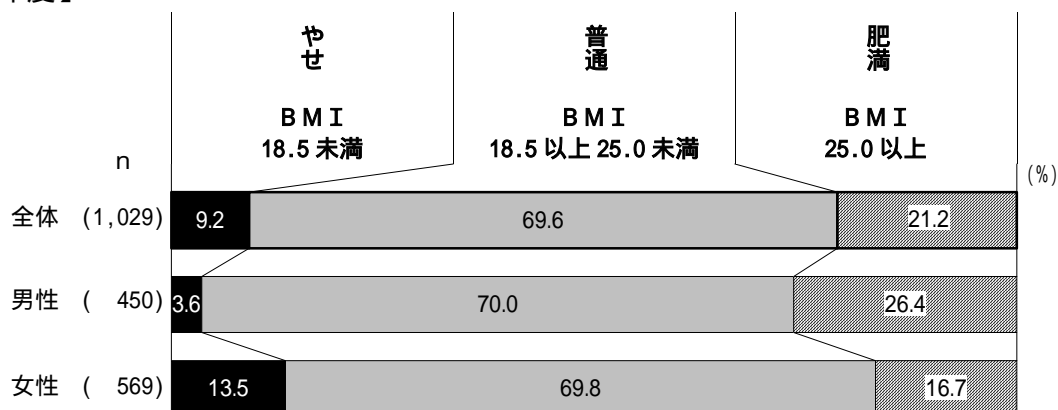
男性の平均腹囲は、30歳以上はいずれも85cm以上となっている。一方、女性の平均腹囲は、70歳代(84.3cm)で最も長く、60歳代(81.8cm)が続く。(図表 - 1 - 6)

(3) BMI

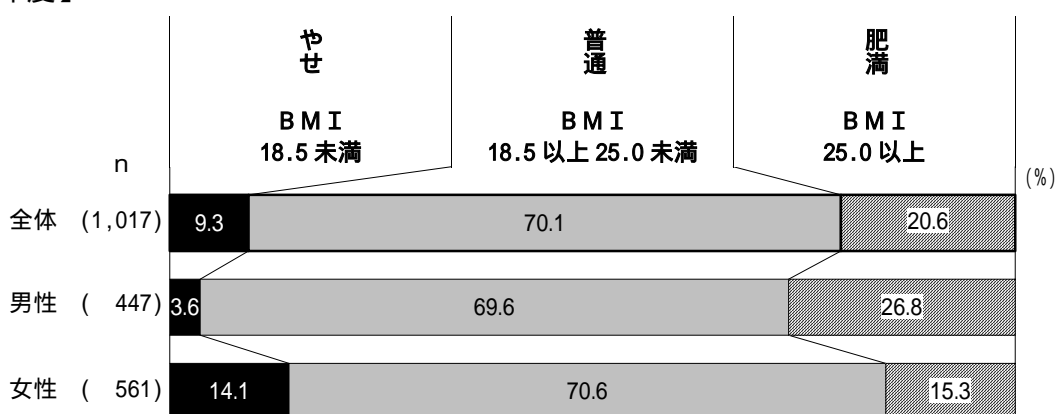
BMIの平均は22.5。構成比は「普通」が約7割で、「肥満」が2割を超える

<図表 - 1 - 7> BMI

【平成19年度】



【平成14年度】



BMI (Body Mass Index = 体格指数) とは  
体格の判定について広く用いられている指標で、次の式で導くことができ、「22」が標準とされている。

$$BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)})$$

また、日本肥満学会ではBMIの判定基準を、18.5未満を「やせ」、18.5以上25.0未満を「普通」、25.0以上を「肥満」と定めている。

身長と体重の結果をもとに、BMIを算出した結果、その平均は22.5で、「普通：18.5以上25.0未満」(69.6%) が約7割で、「肥満：25.0以上」(21.2%) が2割を超える。

性別で見ると、男性の平均は23.5で、女性の平均は21.8である。日本肥満学会の判定基準による構成比では、男女ともに「普通」が7割で大差ないが、「肥満」は男性が女性を10ポイント上回り2割台半ばで、逆に、「やせ」は女性の方が10ポイント高く1割台半ばとなっている。

平成14年度と比較すると、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。(図表 - 1 - 7)

## 【性 / 年齢別】

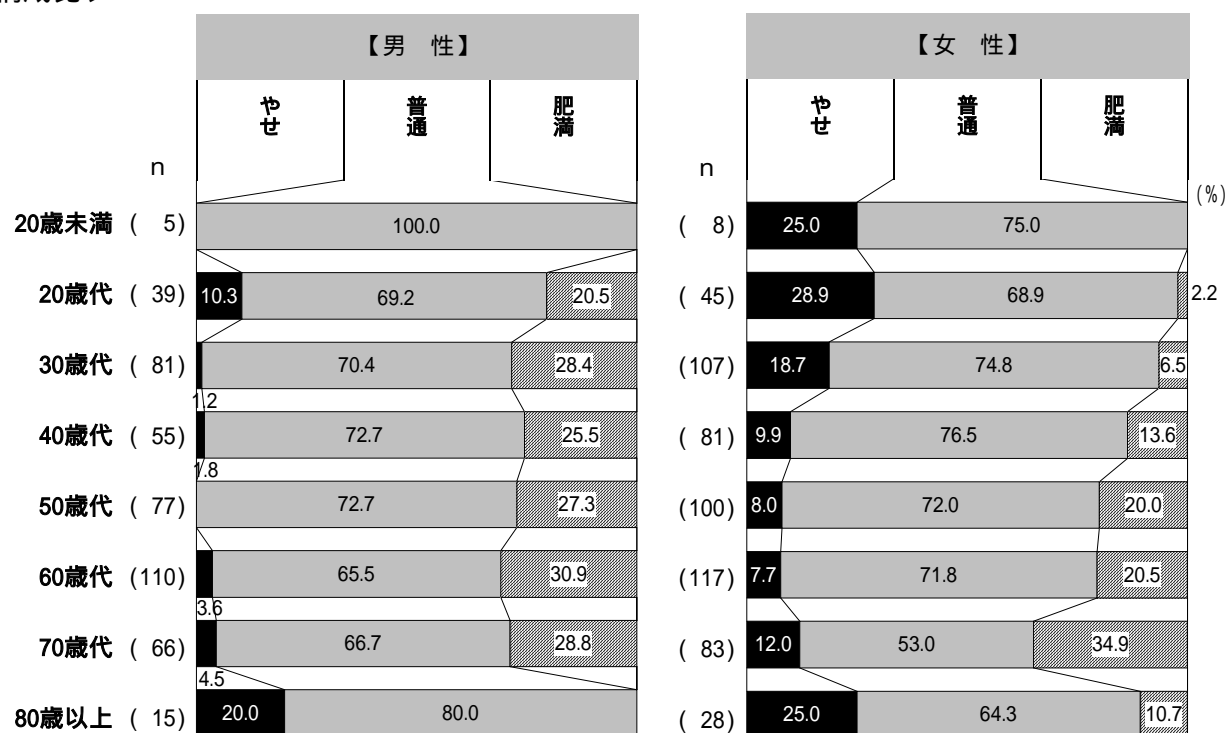
&lt; 図表 - 1 - 8 &gt;

〔平均BMI〕

	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	<u>22.5</u>	19.8	21.6	22.0	22.4	23.3	23.0	23.0	21.0
男性	<u>23.5</u>	20.8	23.3	23.8	23.5	24.0	23.6	23.0	21.3
女性	<u>21.8</u>	19.3	20.2	20.7	21.7	22.6	22.4	23.1	20.8

「全体」には、太字で下線を施している。

〔構成比〕



男女ともに「20歳未満」と「80歳以上」は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

平均BMIでは、男性は50歳代で24.0と最も高く、僅差で30歳代が23.8と続く。20歳～70歳代は、いずれも標準である「22」を上回っている。一方、女性では、70歳代で23.1と最も高く、50歳代で22.6、60歳代で22.4と続き、この3つの層が標準の「22」を上回っている。

また、構成比では、男性は「普通」がいずれの年齢層でも高くなっており、「肥満」は30歳代、50歳～70歳代で3割前後となっている。一方、女性では、「やせ」は20歳代で約3割と高く、60歳代まで年齢が上がるほど漸減している。「普通」はいずれの層でも高くなっており、70歳代は5割台半ばにとどまり、この年齢層では「肥満」が3割台半ばと他の年齢層に比べて高くなっており、

( 図表 - 1 - 8 )

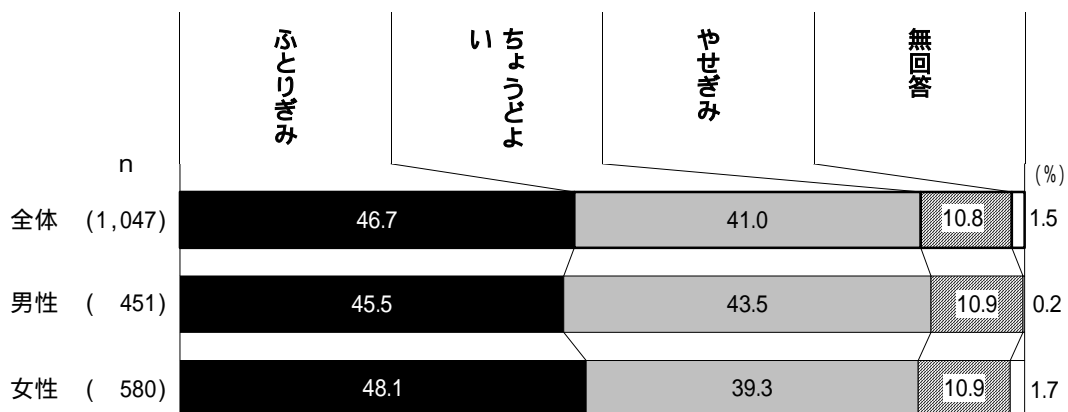
(4) 体型についての認知

「ふとりぎみ」が4割台半ば

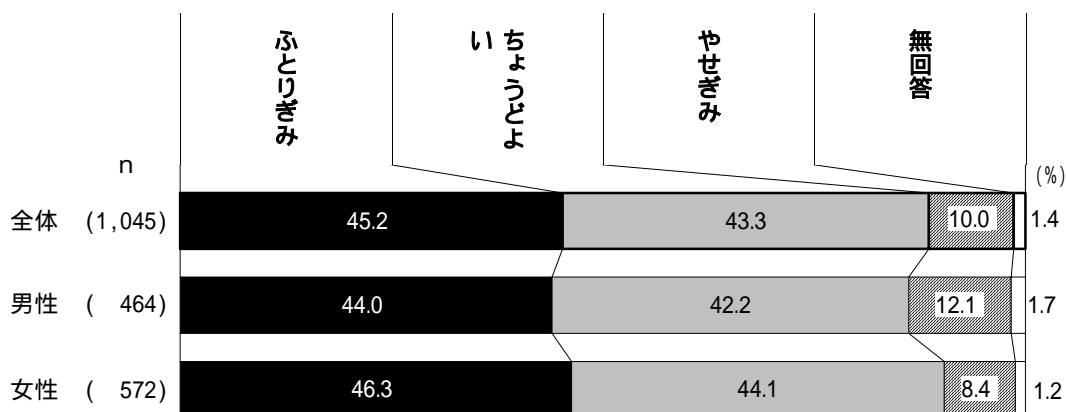
問7 あなたは、自分の体型についてどう思いますか。( は1つだけ)

<図表 - 1 - 9> 体型についての認知

【平成19年度】



【平成14年度】



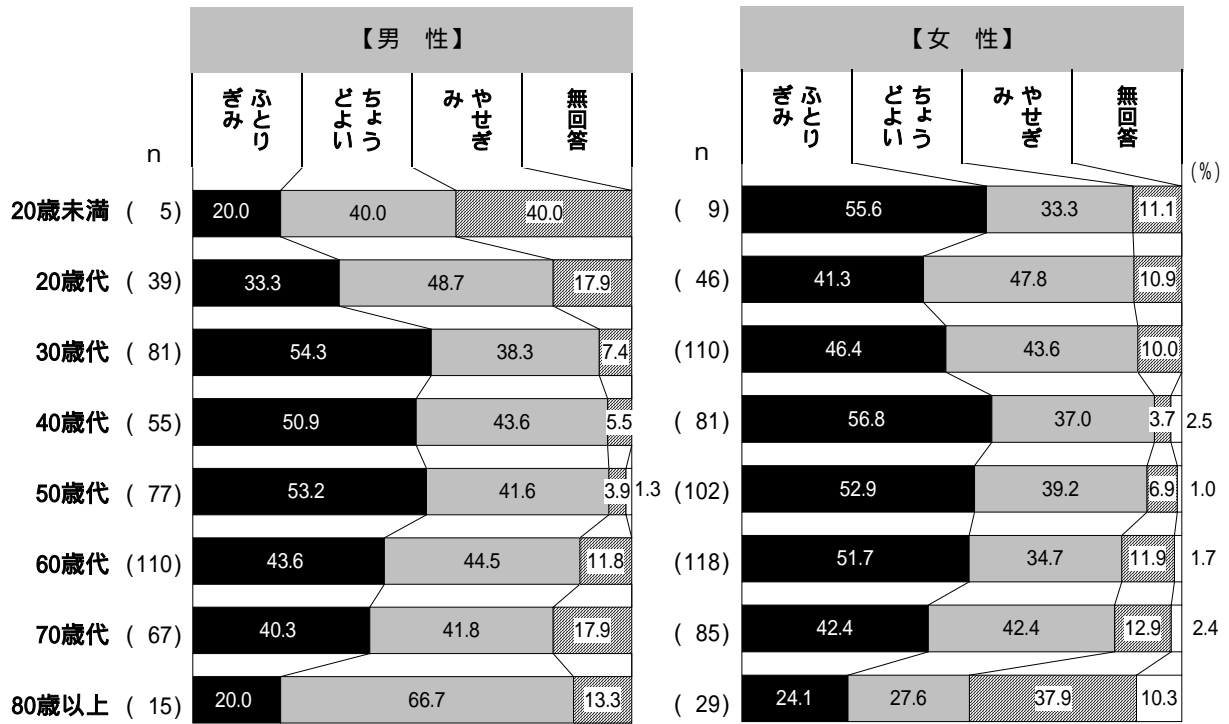
体型については、「ふとりぎみ」(46.7%)が4割台半ばと高く、「ちょうどよい」(41.0%)が4割を超え続く。「やせぎみ」(10.8%)は1割である。

性別で見ると、「ふとりぎみ」は女性の方が、「ちょうどよい」は男性の方が若干高くなっているが、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、女性で「ちょうどよい」が5ポイント減少している。(図表 - 1 - 9)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 10 >



男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

男性では「ふとりぎみ」は、30歳代と50歳代で5割台半ばと高く、40歳代も5割となっている。「みやせぎみ」は20歳代と70歳代で約2割である。一方、女性では「ふとりぎみ」は40歳代で5割台半ばとなっており、50歳～60歳代で5割を超える。「ちょうどよい」は20歳代で約5割、30歳代で4割台半ばと高い傾向にある。(図表 - 1 - 10)

## ～ 体型の認識差 ～

回答者自身の認知している体型とBMIから浮かび上がる実際とが一致しているかどうかの分析を試みた。ここでは、数値の算出方法がこれまでとは異なるので、その条件と算出方法を示すことにする。

条件：性別によっていかに体型の認識差があらわれるかを明確化するため、性別をきちんと回答している人数（男性＝451人、女性＝580人）を対象とする。

条件：条件を満たし、『身長』と『体重』をきちんと回答して、BMIが算出できた人数（男性＝450人、女性＝569人）を対象とする。

条件：分析を明確にするために、との条件を満たして、『体型についての認知』にきちんと回答した人数を対象とし、の条件を満たしながらも『体型についての認知』に無回答だった人（男性1人、女性で9人）を除いた。

その結果、から の条件を満たす人数は、「男性＝449人、女性＝560人」となった。

表中の比率は、上記のように算出された「男性＝449人、女性＝560人」を基数（＝分母）として、全ての項目の人数を割ったものである。なお、表の左側は『BMI』の、表の上段は『体型についての認知』の回答結果となっている。ただし、『BMI』については、上から「肥満」、「普通」、「やせ」の順に記載している。

これらを整理すると、表中で■で示されている対角線の部分は、『BMI』と『体型についての認知』が一致している人の集団を表し、この部分を【一致型】とする。次に、対角線より左下の部分を『BMI』に比べて、『体型についての認知』がややふとりぎみと判断している集団を表す【認知過剰型】とする。さらに、表の右上の部分を、『BMI』に比べて『体型についての認知』をやややせていると判断している集団を表す【認知希薄型】とする。

### 表の見方

例えば、『BMI』で「やせ」だった人が、『体型についての認知』で「ちょうどよい」と回答した場合に、その人はどの欄に位置するかを考えてみる。

- ( ) <図表 - 1 - 11>の左側（表側）で「やせ」の行を右に進む。
- ( ) 上段（表頭）の「ちょうどよい」の列を下に進む。
- ( )( )と( )が交差する部分を見つける。

上記の手順を踏んだ場合、この例での回答者は、( )と( )が交差する部分にある3人の中の1人であり、『BMI』は「やせ」だが、『体型の認知』は「ちょうどよい」と考えている集団、つまり、【認知過剰型】に属していると言える。

## 【男性】

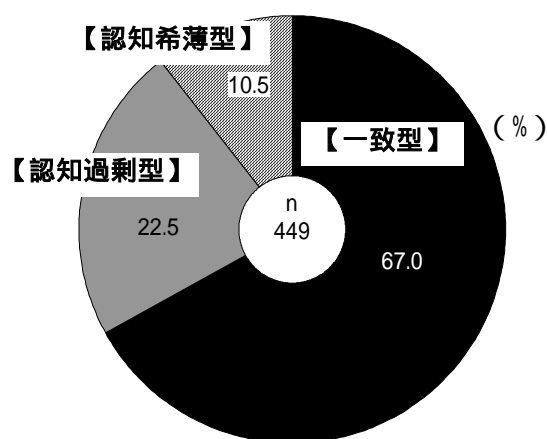
&lt;図表 - 1 - 11&gt;

『BMI』		『体型についての認知』			【一致型】
		ふとりぎみ	ちょうどよい	やせぎみ	
肥満	107 23.8	11 2.4	1 0.2	47人 10.5%	
普通	98 21.8	181 40.3	35 7.8		
やせ	0 0.0	3 0.7	13 2.9		
【認知過剰型】 101人 22.5%				【一致型】 301人 67.0%	

上段：人数（人）  
下段：比率（%）

(n=449)

例えば、表中の【一致型】【認知過剰型】【認知希薄型】の、それぞれの比率を全て足し合わせたものと、右下にある比率とではやや異なるが、これは、小数点以下第2位を四捨五入しているためにおきる差である。



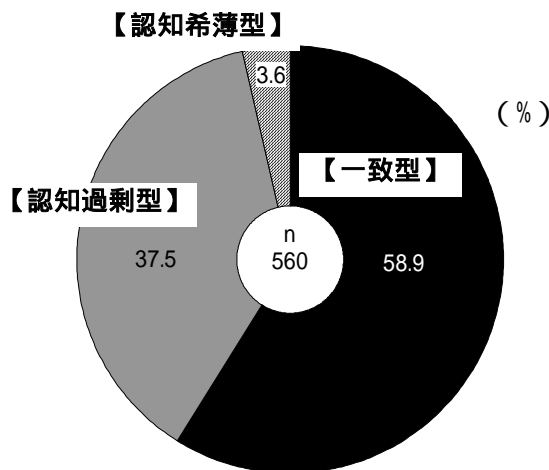
体型の認識差をみてみると、【一致型】は301人で67.0%である。そして、【認知過剰型】が101人で22.5%、【認知希薄型】は47人で10.5%となっている。つまり、約7割の人は『BMI』と『体型の認知』の認識が一致しているが、3割を超える人は『BMI』と『体型の認知』の認識が乖離していることが分かる。(図表 - 1 - 11)

【女性】

<図表 - 1 - 12>

『BMI』 \ 『体型についての認知』		上段：人数(人) 下段：比率(%)			【認知希薄型】  20人 3.6%
		ふとりぎみ	ちよつぷい	やせぎみ	
肥満		91 16.3	2 0.4	0 0.0	【一致型】 330人 58.9%
普通		179 32.0	194 34.6	18 3.2	
やせ		3 0.5	28 5.0	45 8.0	
【認知過剰型】 210人 37.5%					

例えば、表中の【一致型】【認知過剰型】【認知希薄型】の、それぞれの比率を全て足し合わせたものと、右下にある比率とではやや異なるが、これは、小数点以下第2位を四捨五入しているためにおきる差である。



体型の認識差をみてみると、【一致型】は330人で58.9%である。そして、【認知過剰型】が210人で37.5%、【認知希薄型】は20人で3.6%となっている。つまり、約6割は『BMI』と『体型の認知』の認識が一致しているが、4割を超える人は『BMI』と『体型の認知』の認識が乖離していることが分かる。(図表 - 1 - 12)

【総括】

体型の認識差は女性の方が大きい

男性の方が女性よりも『BMI』と『体型の認知』の認識差が小さく、女性の方が認識差は大きいと考えられる。さらに、女性については、多くは過剰な認識の傾向がみられることが確認できる。

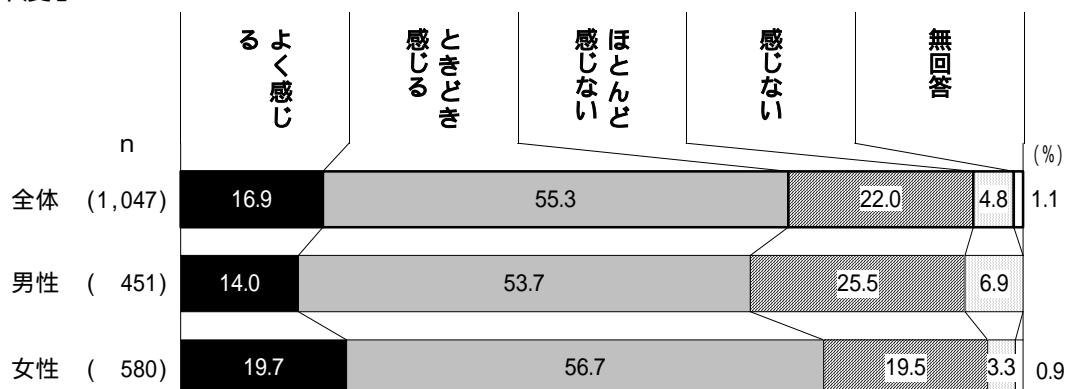
(5) 健康への不安感

《不安を感じる》は7割を超える。一方、《不安を感じない》は2割台半ば

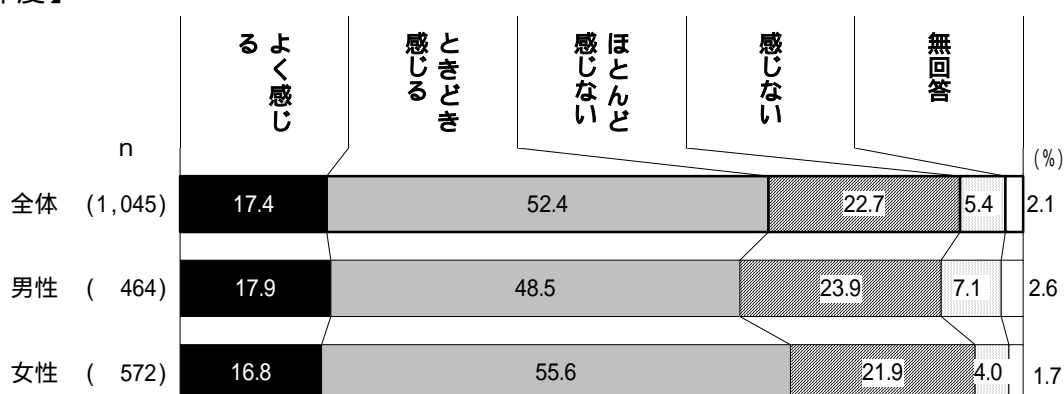
問8 - 1 あなたは、自分の健康に不安を感じることはありますか。( は1つだけ)

<図表 - 1 - 13> 健康への不安感

【平成19年度】



【平成14年度】

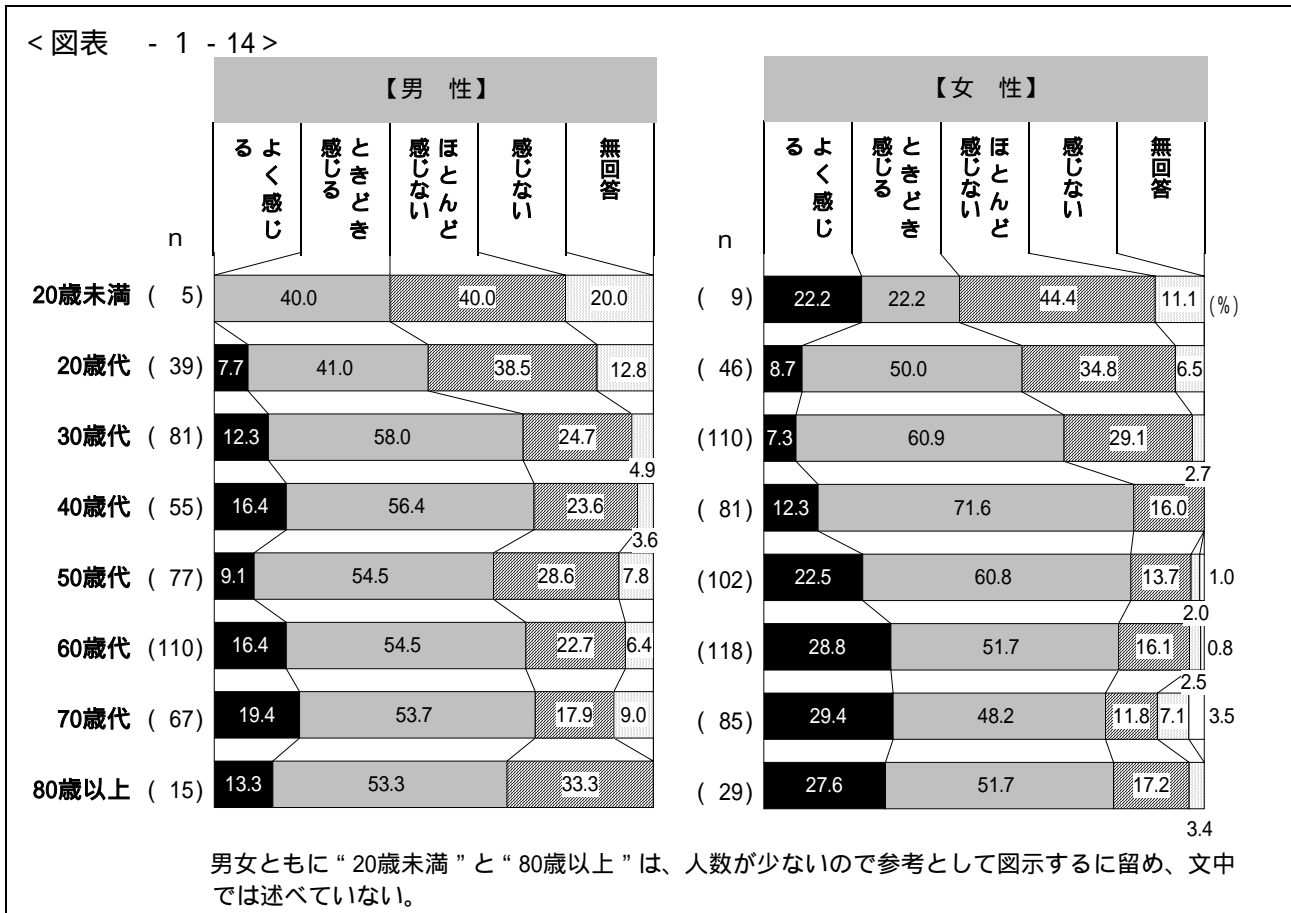


健康への不安感では、「よく感じる」(16.9%)が1割台半ば、「ときどき感じる」(55.3%)が5割台半ばで、これらを合わせると、《不安を感じる》(72.2%)が7割を超える。一方、「ほとんど感じない」(22.0%)と「感じない」(4.8%)を合わせた《不安を感じない》(26.8%)は2割台半ばである。

性別でみると、《不安を感じる》は女性の方が男性よりも9ポイント高く7割台半ばとなっている。逆に、《不安を感じない》は男性の方が10ポイント高率で3割を超える。

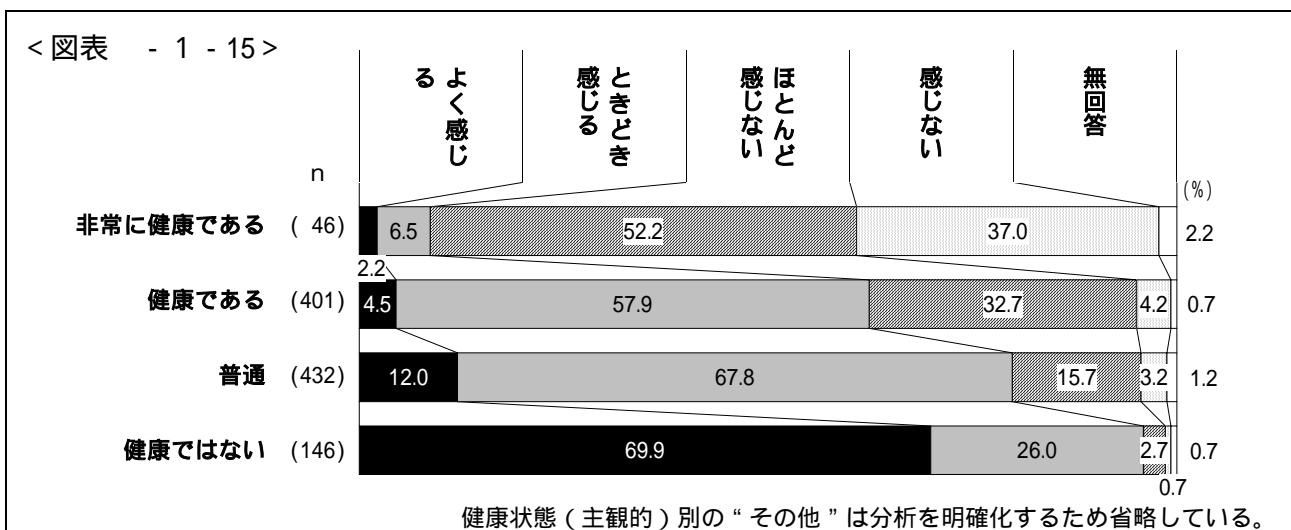
平成14年度と比較すると、男性で「ときどき感じる」が5ポイント増加している。ただし、「よく感じる」が減少していることから、《不安を感じる》での大差はみられない。(図表 - 1 - 13)

【性 / 年齢別】



男性では《不安を感じる》は70歳代で7割台半ばと最も高く、それ以外にも20歳代と50歳代を除き7割前後となっている。逆に、《不安を感じない》は20歳代で5割を超え、唯一《不安を感じない》が《不安を感じる》よりも高くなっている。一方、女性では《不安を感じる》は40歳代で急増し、40歳～50歳代で8割台半ば、60歳代で8割となっている。逆に、《不安を感じない》は20歳代で4割を超え、30歳代で3割を超える。(図表 - 1 - 14)

【健康状態(主観的)別】



後述する『問13 健康状態(主観的)』の回答別で健康への不安感をみたと、健康である人ほど不安を感じることは少なく、逆に、“健康ではない”人ほど不安感が高い。(図表 - 1 - 15)

(6) 不安を感じること

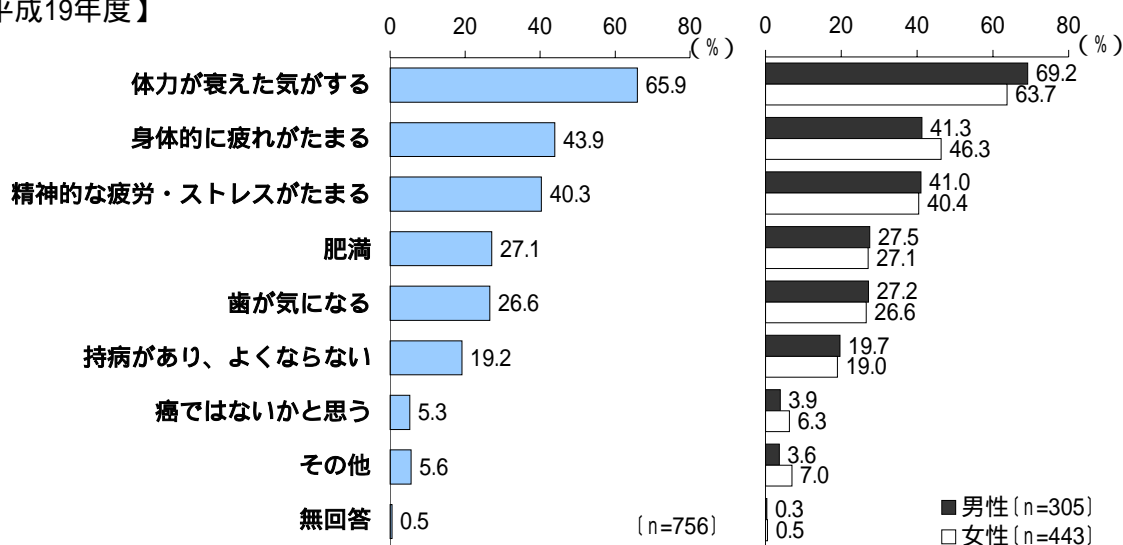
「体力が衰えた気がする」が6割台半ばで最も高い

(問8-1で、「1」か「2」とお答えの方に)

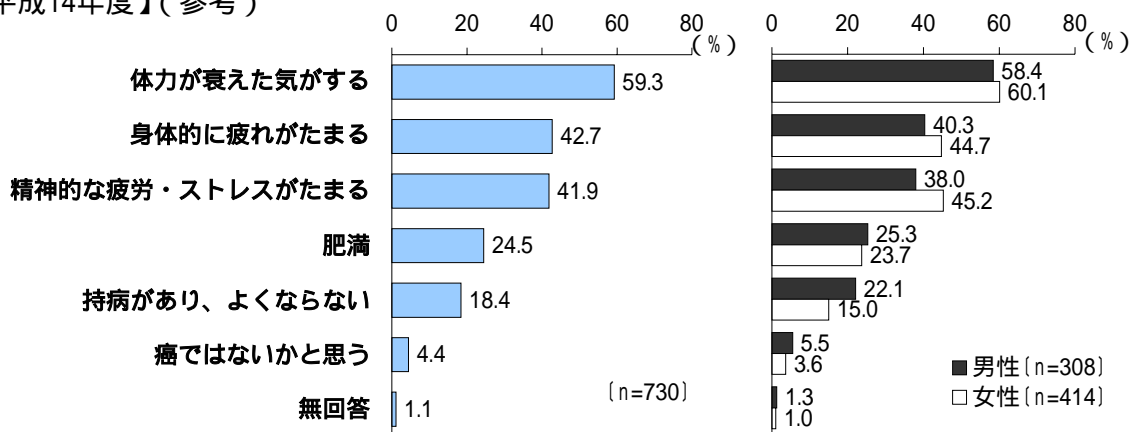
問8-2 どんなことに不安を感じますか。(はいいくつでも)

<図表 - 1 - 16> 不安を感じること

【平成19年度】



【平成14年度】(参考)



問8-1で、「不安を感じる」と回答した人にその内容を聞いたところ、「体力が衰えた気がする」(65.9%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「身体的に疲れがたまる」(43.9%)が4割台半ば、「精神的な疲労・ストレスがたまる」(40.3%)が4割となっている。

性別で見ると、「体力が衰えた気がする」は男性の方が女性よりも6ポイント高く、逆に、「身体的に疲れがたまる」は女性が5ポイント上回っている。

平成14年度との比較については、選択肢数が異なることから参考までに図示するに留める。(図表 - 1 - 16)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 17 > (全項目)

(%)

		n	体力が衰えた気がする	身体的に疲れがたまると	精神的な疲労・ストレスがたまる	肥満	歯が気になる	持病があり、よくならない	癌ではないかと思う	その他	無回答
性 / 年齢別	男性	20歳未満	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-
		20歳代	19	47.4	42.1	57.9	36.8	5.3	10.5	-	-
		30歳代	57	64.9	54.4	54.4	38.6	21.1	7.0	1.8	1.8
		40歳代	40	87.5	57.5	67.5	30.0	22.5	15.0	5.0	2.5
		50歳代	49	79.6	46.9	63.3	32.7	36.7	10.2	8.2	4.1
		60歳代	78	59.0	33.3	21.8	19.2	30.8	28.2	5.1	5.1
		70歳代	49	69.4	22.4	12.2	24.5	32.7	34.7	2.0	4.1
		80歳以上	10	90.0	20.0	20.0	-	30.0	40.0	-	10.0
	女性	20歳未満	4	50.0	50.0	75.0	25.0	-	25.0	-	-
		20歳代	27	40.7	51.9	66.7	18.5	33.3	11.1	3.7	18.5
		30歳代	75	56.0	48.0	52.0	28.0	29.3	9.3	8.0	10.7
		40歳代	68	70.6	61.8	44.1	33.8	26.5	8.8	7.4	5.9
		50歳代	85	67.1	56.5	38.8	30.6	27.1	18.8	3.5	5.9
		60歳代	95	64.2	38.9	38.9	31.6	27.4	27.4	10.5	2.1
		70歳代	66	66.7	28.8	24.2	18.2	25.8	30.3	1.5	9.1
80歳以上		23	73.9	30.4	13.0	8.7	13.0	21.7	8.7	4.3	

男女ともに「20歳未満」、「20歳代」、「80歳以上」は、人数が少ないので参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。  
 図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。また、最も比率の低い層は、数値の先頭に を付け、下線を施した。なお、下を向く実線の矢印は漸増傾向を、破線の矢印は漸減傾向を表している。

男性では「体力が衰えた気がする」は40歳代で約9割と最も高く、次いで50歳代で約8割となっている。「身体的に疲れがたまると」と「精神的な疲労・ストレスがたまる」でも、40歳代は最も高く、それ以降年齢が上がるほど漸減している。また、「肥満」は30歳代で約4割、「歯が気になる」は50歳代で3割台半ばと最も高く、「持病があり、よくならない」は年齢が上がるほど漸増し、70歳代で3割台半ばとなっている。一方、女性では、「体力が衰えた気がする」は40歳代で7割と最も高く、次いで50歳代で約7割となっている。「身体的に疲れがたまると」でも、40歳代は6割を超え最も高い。「精神的な疲労・ストレスがたまる」は30歳代で5割を超え、「歯が気になる」でも30歳代は約3割と最も高い。「肥満」は40歳代で3割台半ばと最も高く、「持病があり、よくならない」は年齢が上がるほど漸増し70歳代で3割となる。また、「癌ではないかと思う」は60歳代で1割となっている。(図表 - 1 - 17)

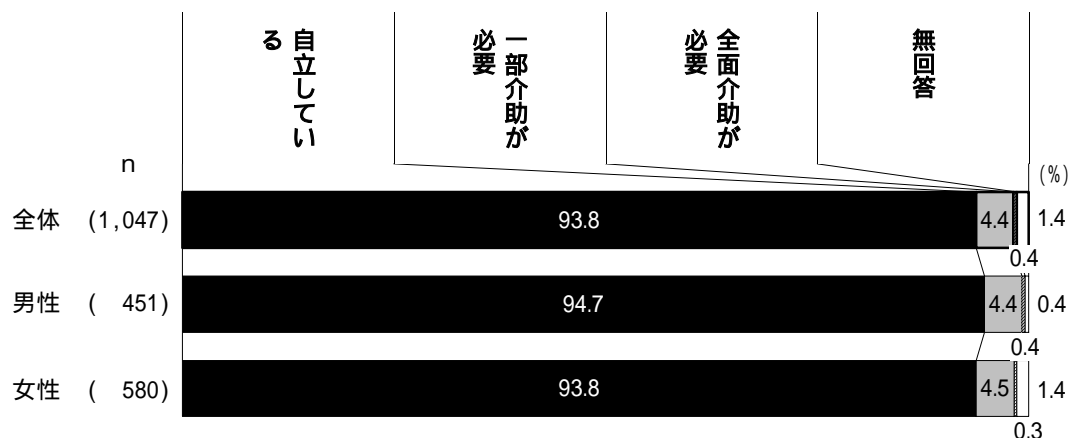
## (7) 日常生活の自立状況

「自立している」が9割台半ばで圧倒的多数を占める

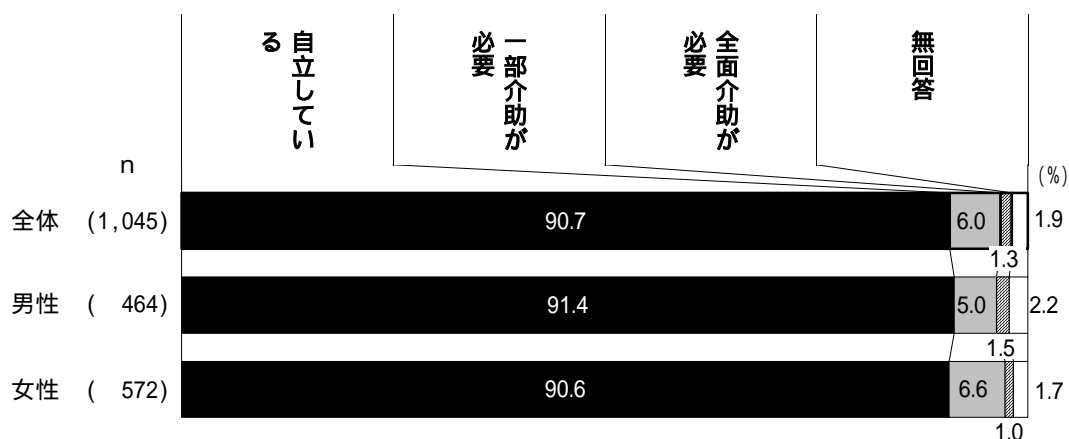
問9 あなたの日常生活の状況について、次の中から選んでください。( は1つだけ)

<図表 - 1 - 18> 日常生活の自立状況

【平成19年度】



【平成14年度】

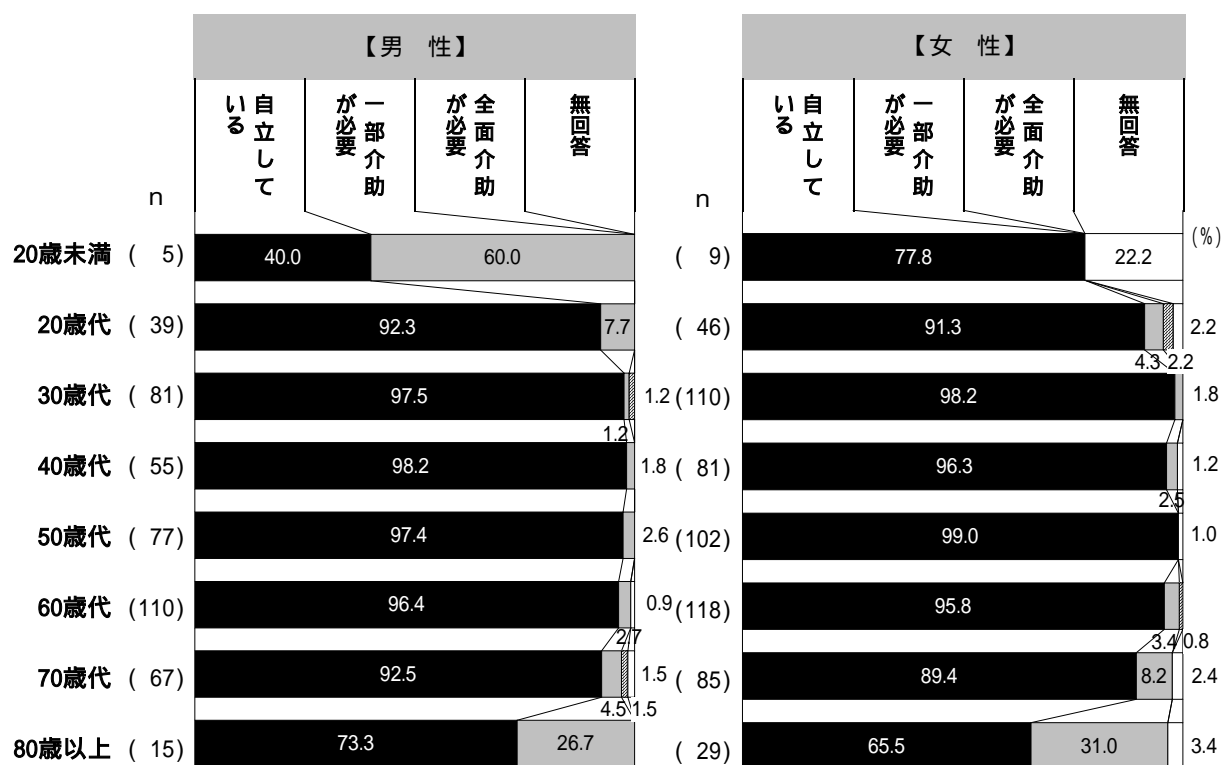


日常生活の自立状況としては、「自立している」(93.8%)が9割台半ばで圧倒的多数を占めている。

なお、性別でも、平成14年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表 - 1 - 18)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 19 >



男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

「自立している」は、男性の20歳～70歳代、女性の20歳～60歳代で9割台となっている。(図表 - 1 - 19)

## (8) かかりつけの医薬機関

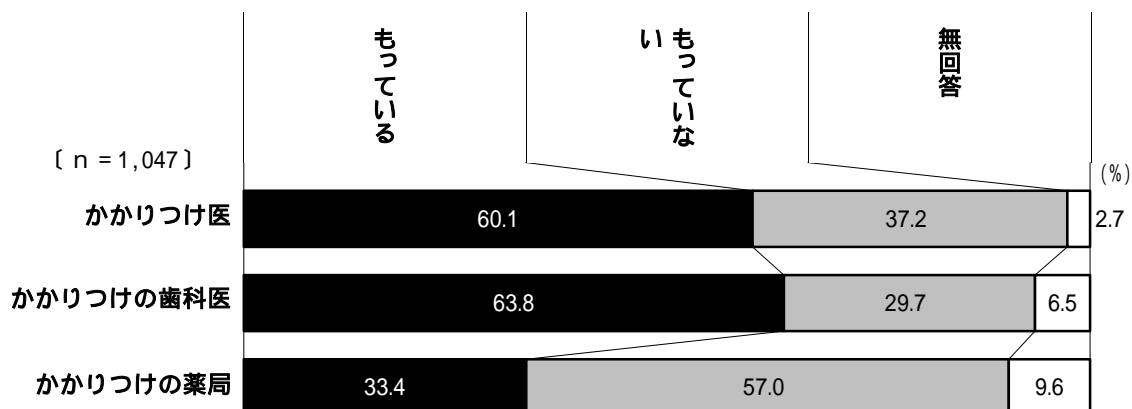
「もっている」は、“かかりつけの歯科医”が6割台半ば、“かかりつけ医”が6割

問10-1 あなたは、かかりつけの医者・歯科医・薬局をもっていますか。

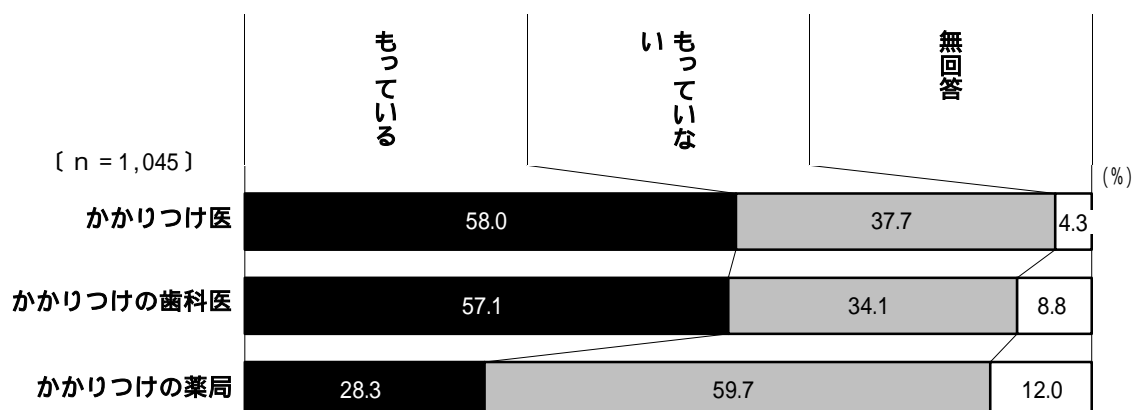
(はそれぞれ1つずつ)

<図表 - 1 - 20> かかりつけの医薬機関

【平成19年度】



【平成14年度】



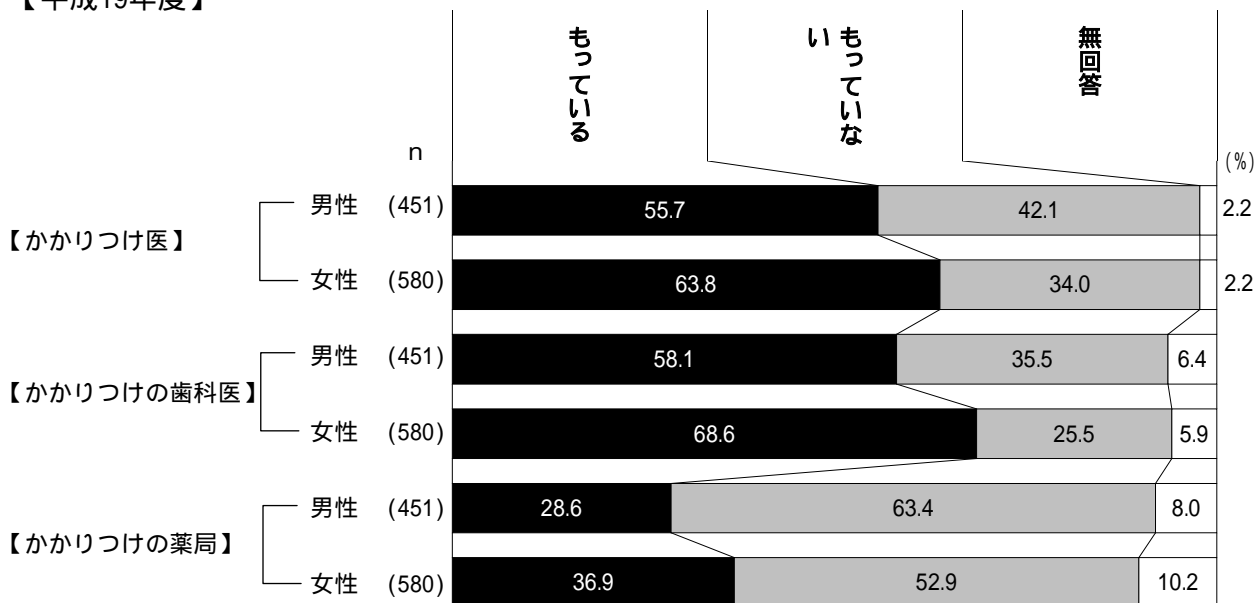
かかりつけの医薬機関では、「もっている」が“かかりつけの歯科医”(63.8%)で6割台半ばと最も高く、“かかりつけ医”(60.1%)が6割で続き、どちらも「もっていない」を上回っている。一方、“かかりつけの薬局”では、「もっている」(33.4%)が3割台半ばで、「もっていない」(57.0%)が約6割と、「もっていない」が上回っている。

平成14年度と比較すると、“かかりつけの歯科医”を「もっている」が7ポイント、“かかりつけの薬局”を「もっている」が5ポイント増加している。(図表 - 1 - 20)

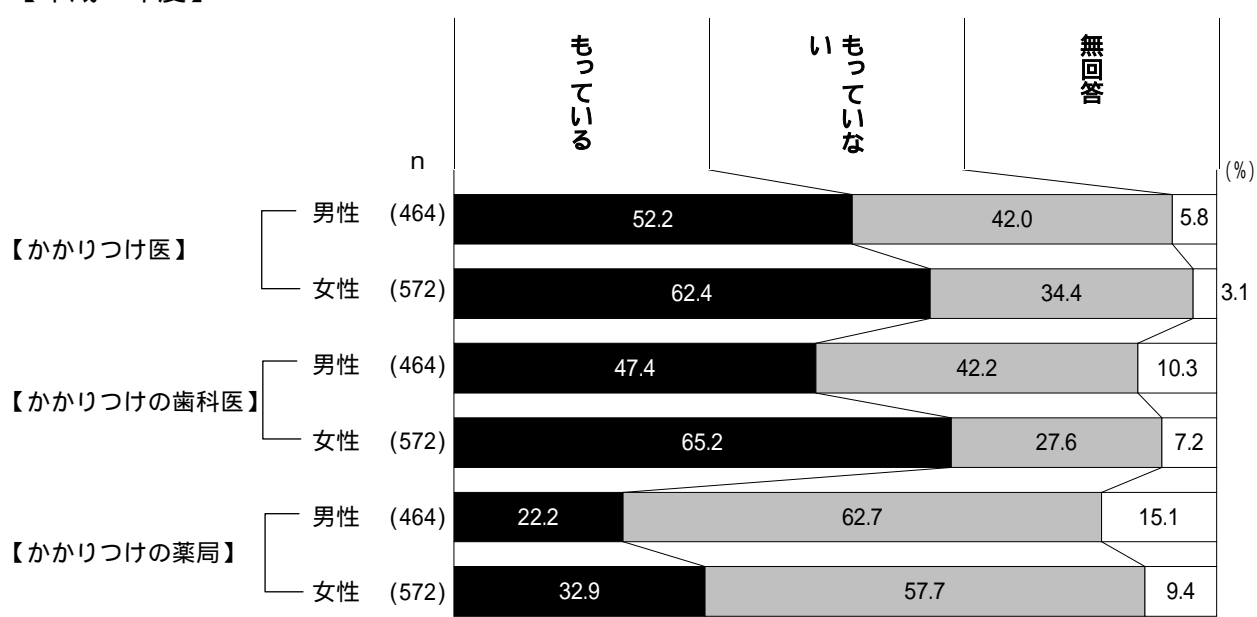
【性別】

< 図表 - 1 - 21 >

【平成19年度】



【平成14年度】



性別で見ると、いずれの医薬機関も「もっている」は女性の方が男性よりも高く、それぞれの差をみると、“かかりつけの歯科医”で11ポイント、“かかりつけ医”と“かかりつけの薬局”で8ポイント差となっている。

平成14年度と比較すると、いずれの医薬機関も「もっている」は男女ともに増加している。特に、男性での増加が目立ち、“かかりつけの歯科医”で11ポイント、“かかりつけの薬局”で6ポイント増加している。(図表 - 1 - 21)

## (9) かかりつけの医薬機関を選んだ理由

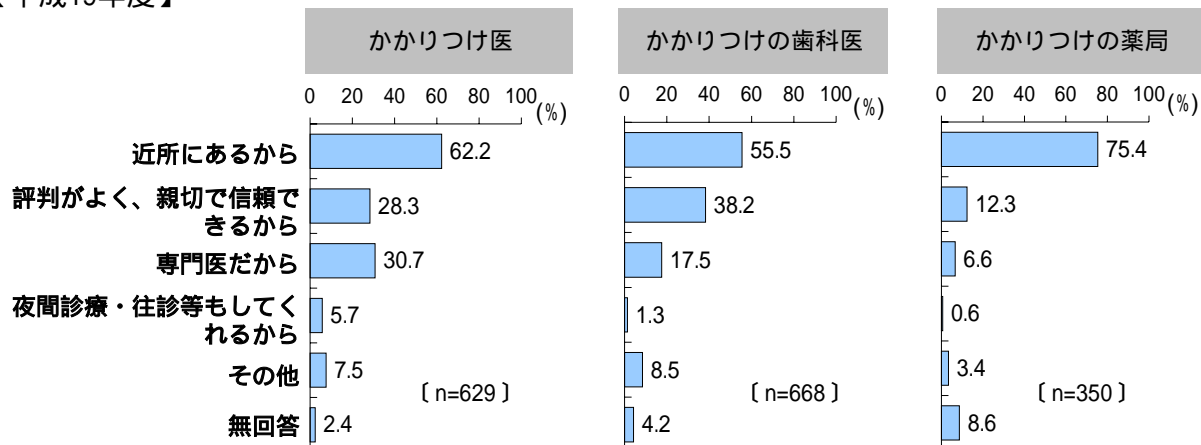
いずれの医薬機関も「近所にあるから」が最も大きな理由

(問10-1で、1つでも「1 もっている」とお答えの方に)

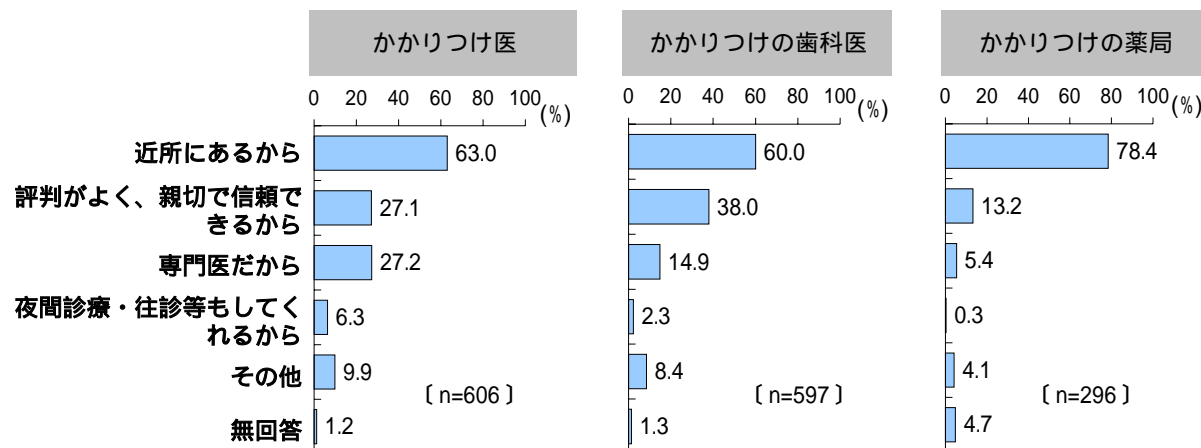
問10-2 どのような理由で選びましたか。( はそれぞれいくつでも)

< 図表 - 1 - 22 > かかりつけの医薬機関を選んだ理由

## 【平成19年度】



## 【平成14年度】



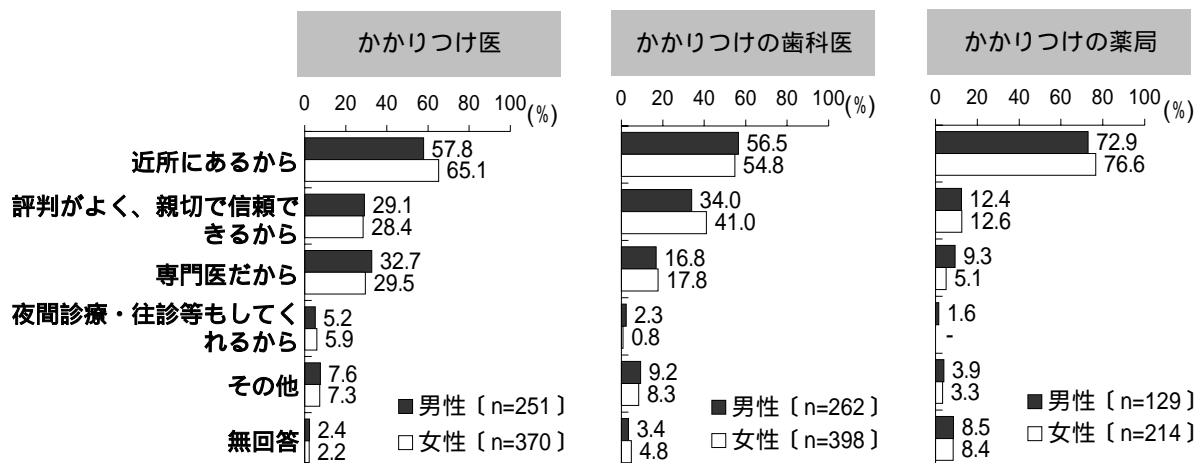
問10-1で、かかりつけの医薬機関を「もっている」と回答した人に、選んだ理由を聞いた。その結果、いずれの医薬機関とも「近所にあるから」が最も高く、特に、“かかりつけの薬局”(75.4%)は7割台半ばと高くなっている。“かかりつけ医”の場合、2番目に大きな理由は、「専門医だから」(30.7%)で、続く「評判がよく、親切で信頼できるから」(28.3%)がそれぞれ3割前後となっている。一方、“かかりつけの歯科医”と“かかりつけの薬局”の場合は、「評判がよく、親切で信頼できるから」が2番目となっており、特に、“かかりつけの歯科医”(38.2%)は約4割で高くなっている。

平成14年度と比較すると、“かかりつけの歯科医”で「近所にあるから」が5ポイント減少しているものの、それ以外には比率にも順位にも特に大きな違いはみられない。(図表 - 1 - 22)

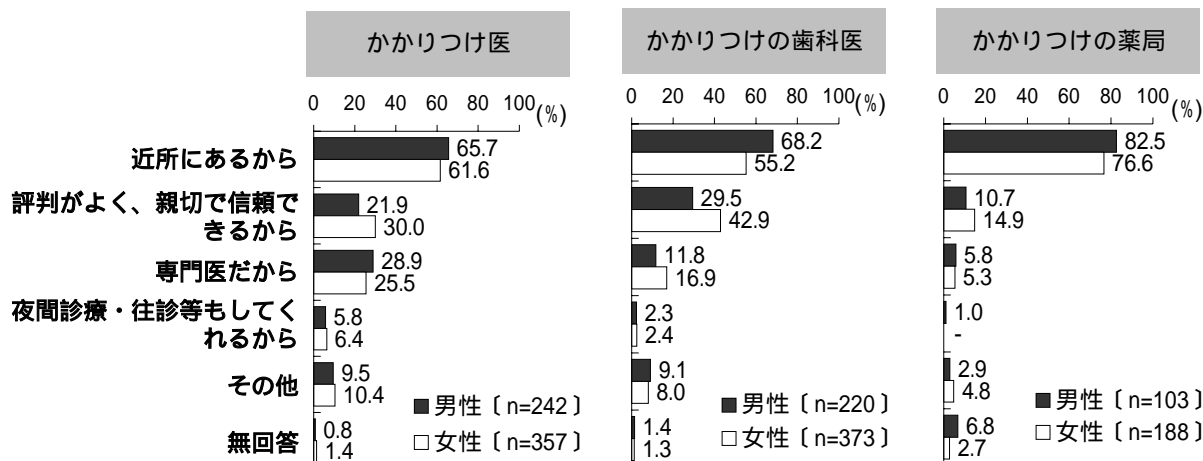
【性別】

< 図表 - 1 - 23 >

【平成19年度】



【平成14年度】



性別で見ると、“かかりつけ医”では「近所にあるから」で、“かかりつけの歯科医”では「評判がよく、親切で信頼できるから」で、それぞれ女性の方が男性よりも7ポイント高くなっている。

平成14年度と比較すると、いずれの医薬機関も「近所にあるから」は男性で減少していることが目立つ。順に列挙していくと、“かかりつけ医”で8ポイント、“かかりつけの歯科医”で12ポイント、“かかりつけの薬局”で10ポイント減少している。その一方で、いずれの医薬機関も「評判がよく、親切で信頼できるから」は男性で増加しており、特に、“かかりつけ医”は7ポイント、“かかりつけの歯科医”は5ポイント増加となっている。(図表 - 1 - 23)

## (10) かかりつけの医薬機関をもっていない理由

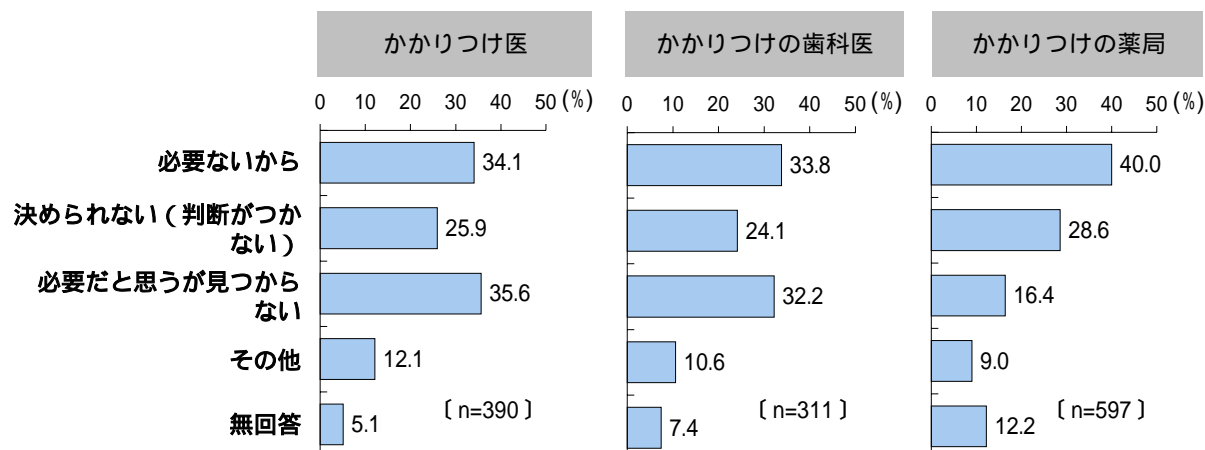
“かかりつけ医”と“かかりつけの歯科医”は「必要ないから」と「見つからない」が並ぶ

(問10 - 1で、1つでも「2 もっていない」とお答えの方に)

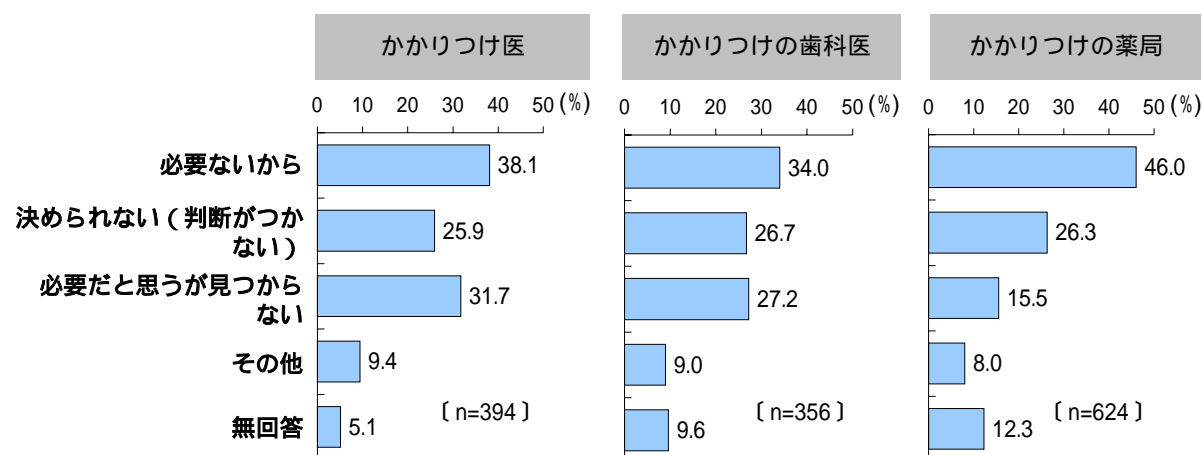
問10 - 3 もっていない理由を選んでください。( はそれぞれいくつでも)

<図表 - 1 - 24> かかりつけの医薬機関をもっていない理由

【平成 19 年度】



【平成 14 年度】



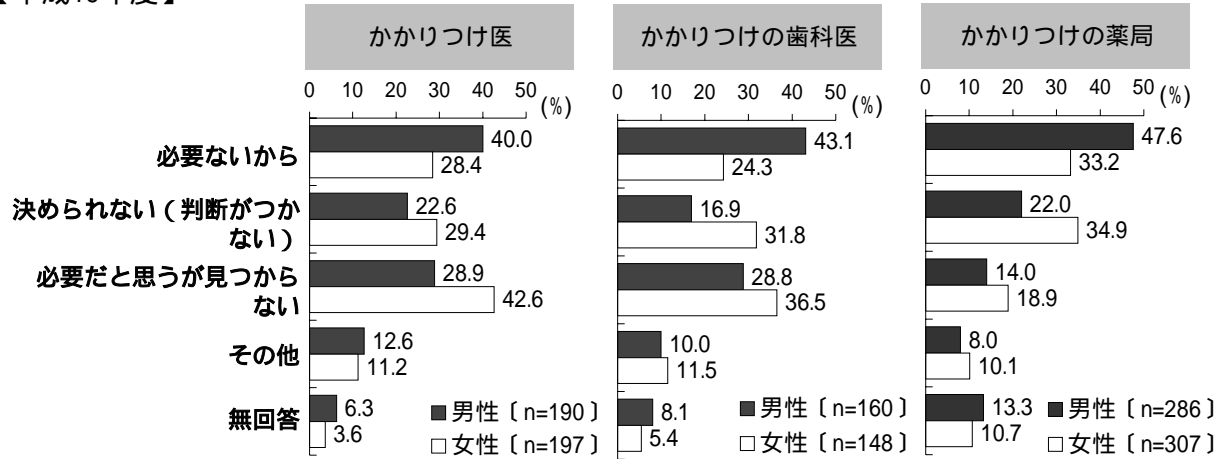
問10 - 1で、かかりつけの医薬機関を「もっていない」と回答した人に、もっていない理由を聞いた。その結果、“かかりつけ医”と“かかりつけの歯科医”では、「必要ないから」と「必要だと思うが見つからない」がおおむね3割台半ばで並ぶ。一方、“かかりつけの薬局”は、「必要ないから」(40.0%)が4割で最も高く、次いで、「決められない(判断がつかない)」(28.6%)が約3割となっている。

平成14年度と比較すると、比較的大きな変化がみられるのは、“かかりつけの歯科医”で「必要だと思うが見つからない」が5ポイント増加し、“かかりつけの薬局”で「必要ないから」が6ポイント減少したことなどである。(図表 - 1 - 24)

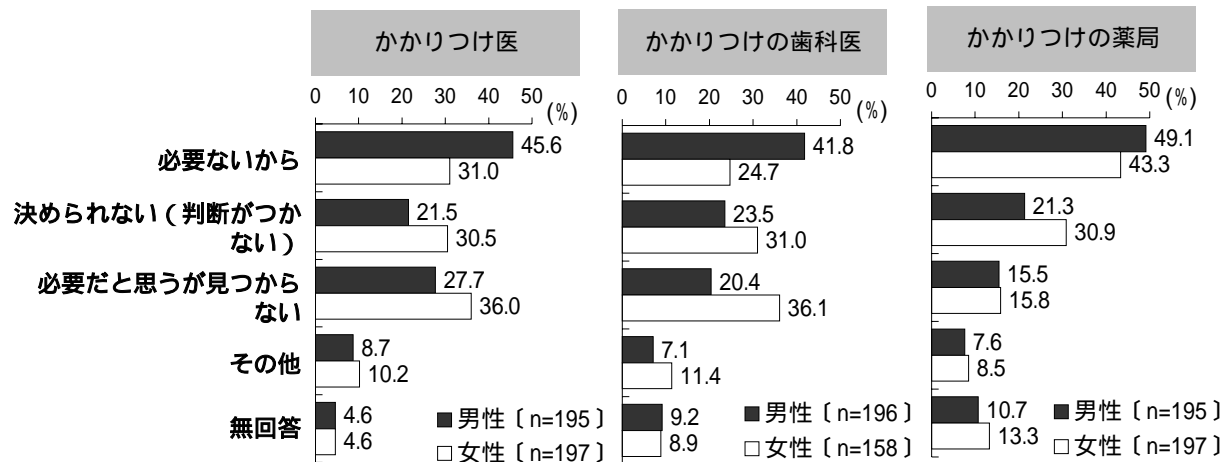
【性別】

< 図表 - 1 - 25 >

【平成19年度】



【平成14年度】



性別で見ると、「必要ないから」はいずれの医薬機関でも男性が女性を大きく上回り、順に列挙すると、「かかりつけ医」で12ポイント、「かかりつけの歯科医」で19ポイント、「かかりつけの薬局」で14ポイント差となっている。一方、「決められない(判断がつかない)」と「必要だと思うが見つからない」では、いずれの機関でも女性の方が男性よりも高く、「決められない(判断がつかない)」は「かかりつけ医」で7ポイント、「かかりつけの歯科医」で15ポイント、「かかりつけの薬局」で13ポイント差となっている。また、「必要だと思うが見つからない」は「かかりつけ医」で14ポイントと大差がみられ、「かかりつけの歯科医」で8ポイント、「かかりつけの薬局」で5ポイント差となっている。

平成14年度と比較すると、「かかりつけ医」では、「必要ないから」が男性で6ポイント減少し、「必要だと思うが見つからない」が女性で7ポイント増加している。「かかりつけの歯科医」では、男性で「決められない(判断がつかない)」が7ポイント減少する一方、「必要だと思うが見つからない」が8ポイント増加している。また、「かかりつけの薬局」では、「必要ないから」が女性で10ポイント減少している。(図表 - 1 - 25)

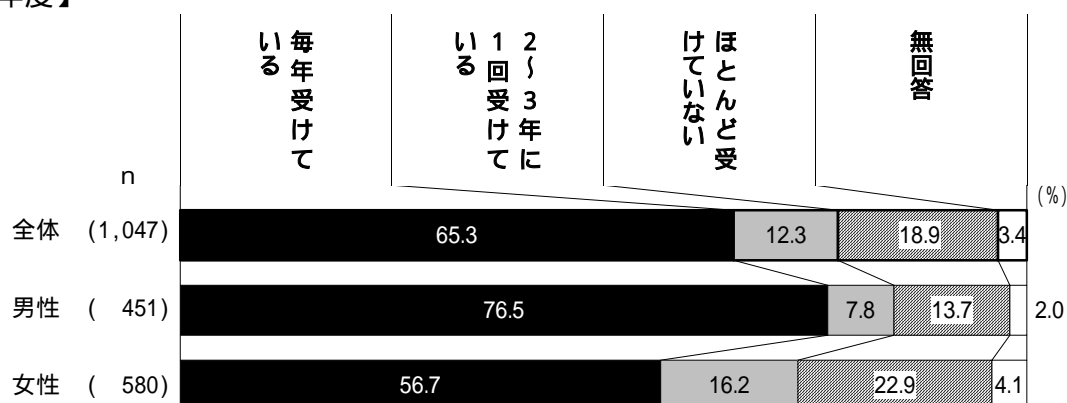
## (11) 定期的な健康診断受診の有無

「毎年受けている」は6割台半ば。ただし、「ほとんど受けていない」が約2割いる

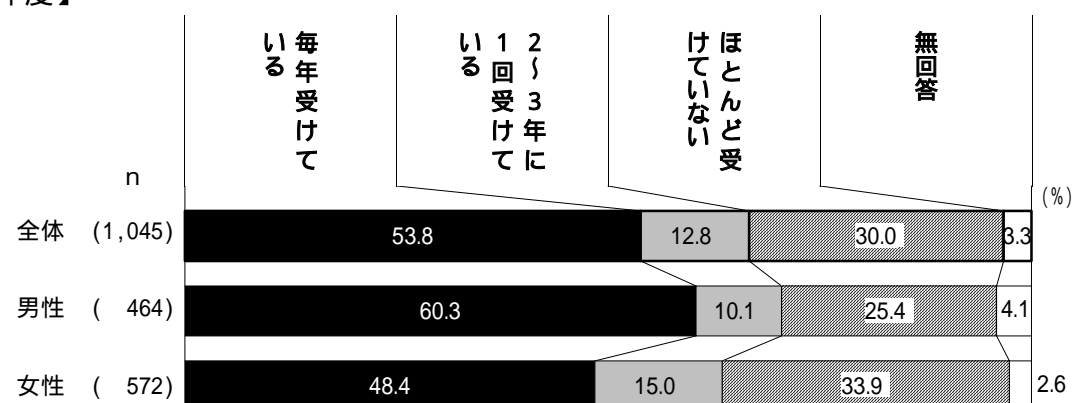
問11-1 あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。( は1つだけ)

<図表 - 1 - 26> 定期的な健康診断受診の有無

## 【平成19年度】



## 【平成14年度】



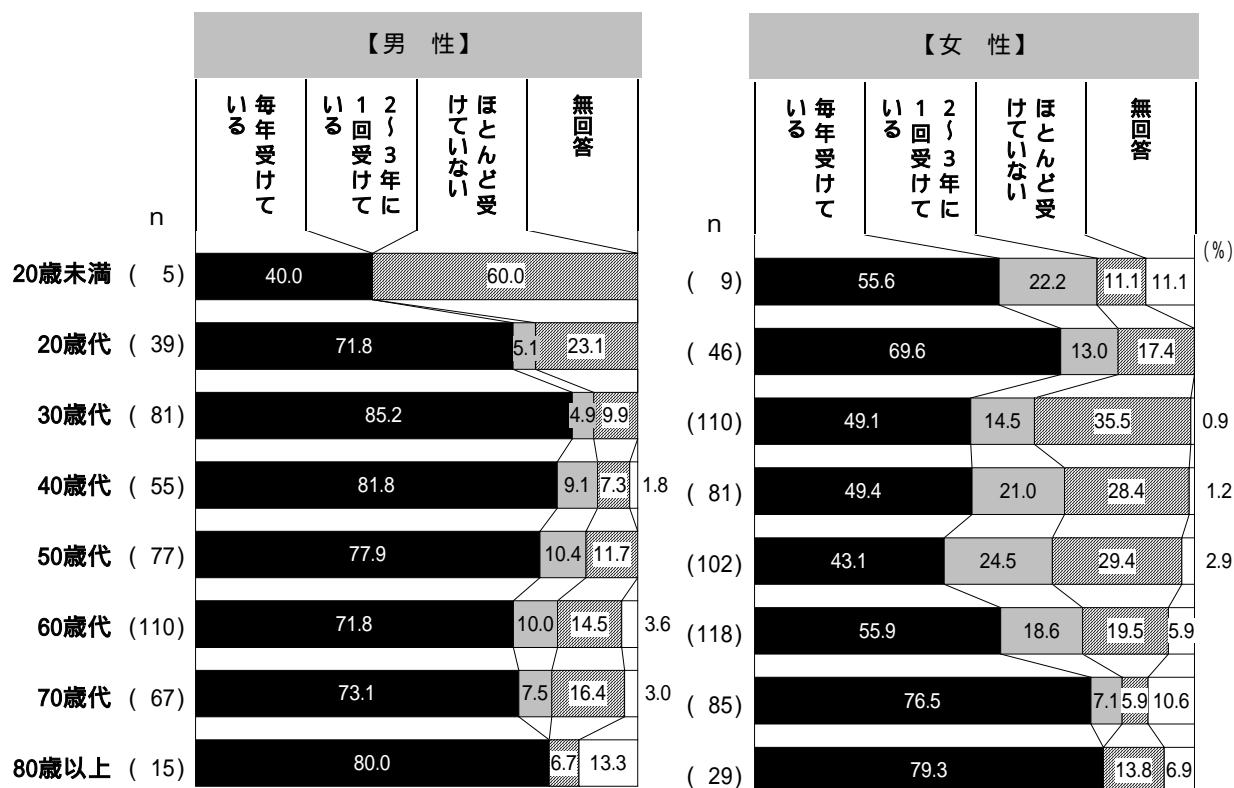
定期的な健康診断受診の有無としては、「毎年受けている」(65.3%)が6割台半ばと高く、「2~3年に1回受けている」(12.3%)が1割を超える。これらを合わせると、「定期的に受けている」(77.6%)は約8割となる。その一方で、「ほとんど受けていない」(18.9%)は約2割となっている。

性別で見ると、「毎年受けている」は男性の方が女性よりも20ポイント高く7割台半ばとなっている。逆に、「ほとんど受けていない」は女性の方が9ポイント高く2割を超える。

平成14年度と比較すると、全体では「毎年受けている」が12ポイント増加し、「ほとんど受けていない」が11ポイント減少している。性別では、「毎年受けている」は男性で16ポイント、女性で8ポイント増加しており、逆に、「ほとんど受けていない」は男性で12ポイント、女性で11ポイント減少している。(図表 - 1 - 26)

【性 / 年齢別】

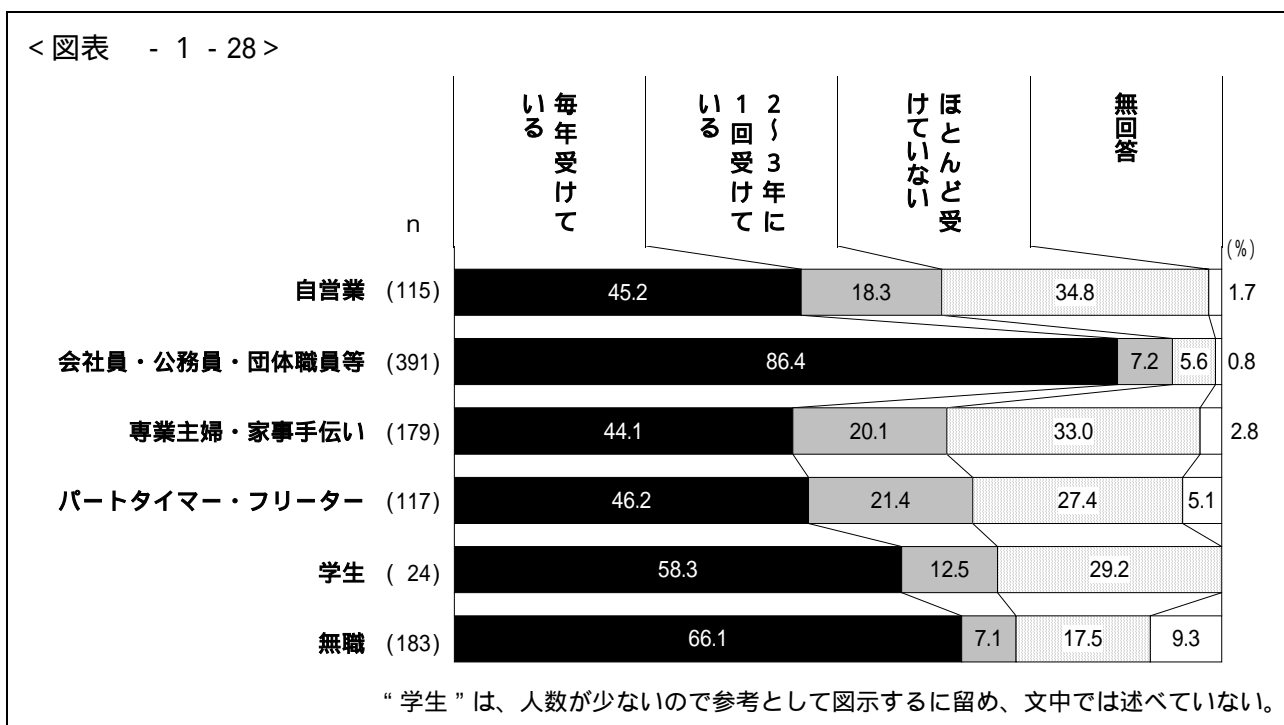
< 図表 - 1 - 27 >



男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

男性では「毎年受けている」は30歳代で8割台半ばと最も高く、次いで40歳代で8割を超える。「ほとんど受けていない」は20歳代で2割台半ばと高い。一方、女性では、「毎年受けている」は70歳代で7割台半ばと最も高く、20歳代が約7割で続く。逆に、「ほとんど受けていない」は30歳代で3割台半ばと最も高くなっている。(図表 - 1 - 27)

【職業別】



「毎年受けている」は会社員・公務員・団体職員等が突出して高く8割台半ばとなっており、無職が6割台半ばで続く。「2～3年に1回受けている」は自営業、専業主婦・家事手伝い、パートタイマー・フリーターで2割前後となっており、これらの層は「ほとんど受けていない」で約3割から3割台半ばと高くなっている。この結果の背景には、会社員・公務員・団体職員等や学生が、通勤・通学先の組織的な健康診断を受けやすいのに対し、自営業、専業主婦・家事手伝い、パートタイマー・フリーターは職業上、組織的な健康診断の機会が少なく、どうしても本人の自発性に負うところが大きいことが考えられる。平成14年度でも触れているが、健康診断を受ける機会の創出や情報提供、そして、本人の自発性を向上させる対策は、引き続き必要であると考えられる。(図表 - 1 - 28)

(12) 健康診断の受診場所

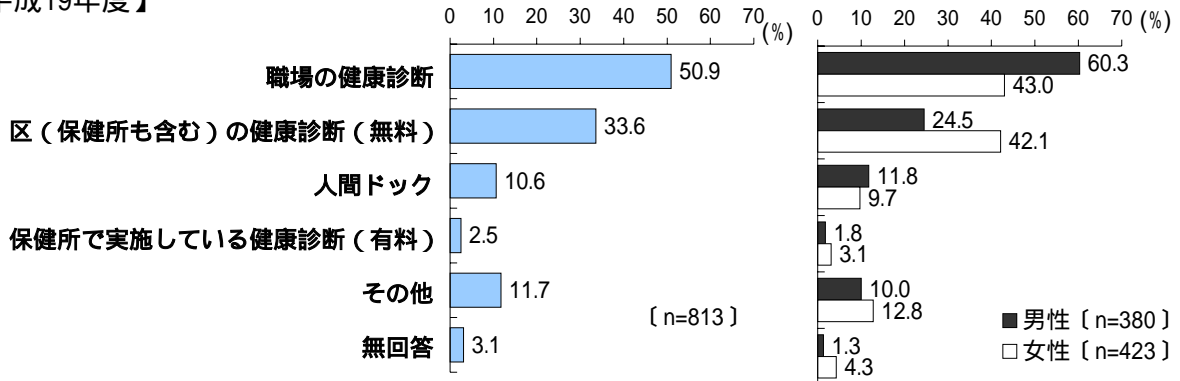
「職場の健康診断」が5割で最も高い。次いで、「区（保健所も含む）の健康診断」が3割台半ば

(問11-1で、「1」か「2」とお答えの方に)

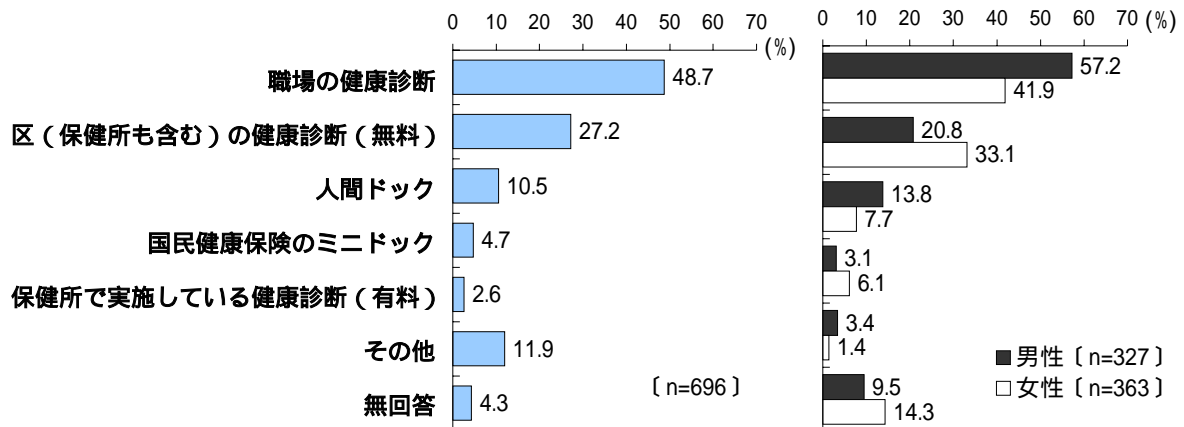
問11-2 健康診断は、どこで受けますか。(はいいくつでも)

<図表 - 1 - 29> 健康診断の受診場所

【平成19年度】



【平成14年度】(参考)



問11-1で、「定期的に受けている」と回答した人にその受診場所を聞いたところ、「職場の健康診断」(50.9%)が5割で最も高くなっている。次いで、「区（保健所も含む）の健康診断（無料）」(33.6%)が3割台半ばで、「人間ドック」(10.6%)が1割となっている。

性別で見ると、「職場の健康診断」は男性の方が女性よりも17ポイント高く、逆に、「区（保健所も含む）の健康診断（無料）」は女性の方が18ポイント高くなっている。

平成14年度との比較については、選択肢数が異なることから参考までに図示するに留める。(図表 - 1 - 29)

(13) 健康診断受診後の行動

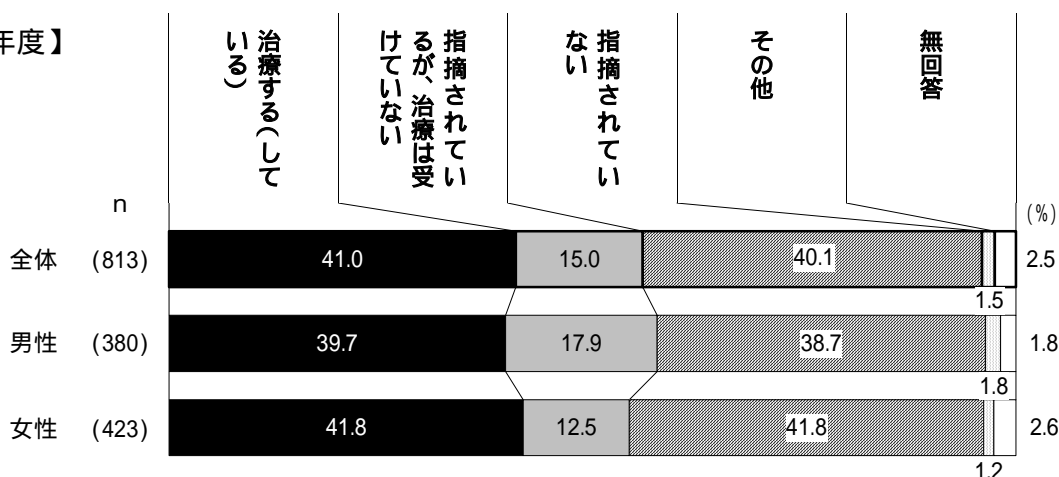
「治療する(している)」と「指摘されていない」が4割で並ぶ

(問11-1で、「1」か「2」とお答えの方に)

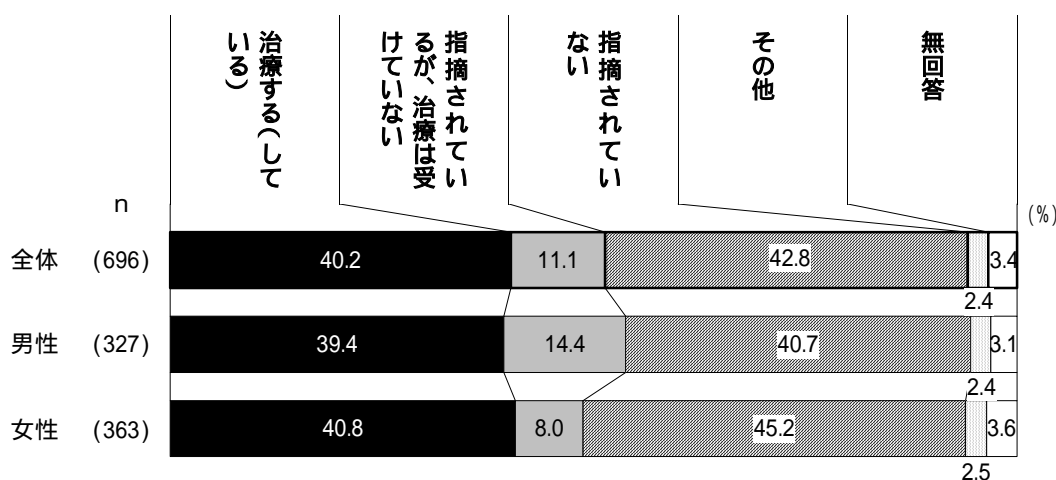
問11-3 健康診断の結果、指摘された事項について、どうしていますか。( は1つだけ)

<図表 - 1 - 30> 健康診断受診後の行動

【平成19年度】



【平成14年度】



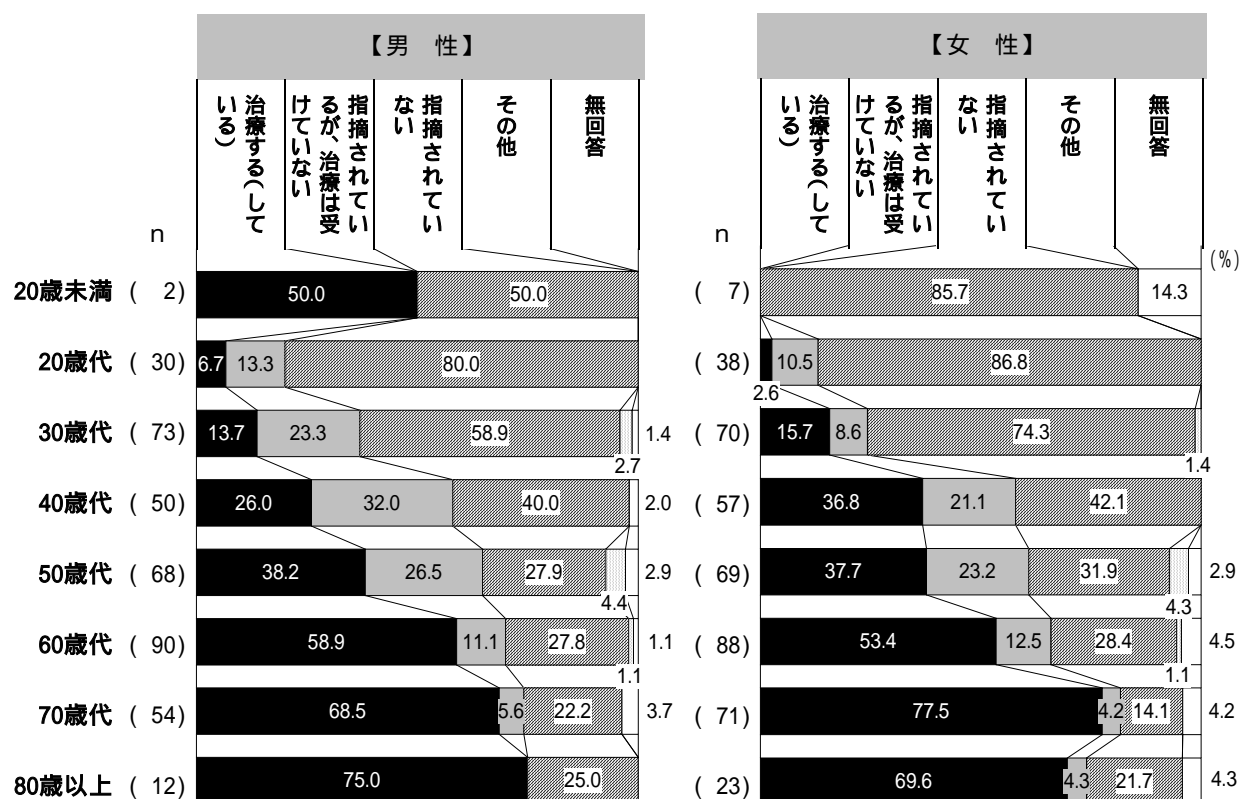
問11-1で、《定期的に受けている》と回答した人のうち、指摘事項を「治療する(している)」(41.0%)は4割となっている。「指摘されていない」(40.1%)も4割で並ぶが、「指摘されているが、治療は受けていない」(15.0%)が1割台半ばいる。

性別でみると、「指摘されているが、治療は受けていない」は男性の方が女性よりも5ポイント高く約2割となっている。

平成14年度と比較すると、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。(図表 - 1 - 30)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 31 >



男女ともに「20歳未満」と「80歳以上」は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

男性では「治療する(している)」は年齢が上がるほど漸増し、60歳代で約6割、70歳代で約7割となる。「指摘されているが、治療は受けていない」は40歳代で3割を超え最も高くなっている。一方、女性でも「治療する(している)」は年齢が上がるほど漸増しており、70歳代で約8割となっている。「指摘されているが、治療は受けていない」は40歳～50歳代で2割を超え高い。また、「指摘されていない」は男女ともに20歳～30歳代で高く、年齢が上がるほど漸減している。(図表 - 1 - 31)

## (14) 通院の有無・通院頻度

## 通院の有無

「通院していない」が約2割、「通院中」が約8割

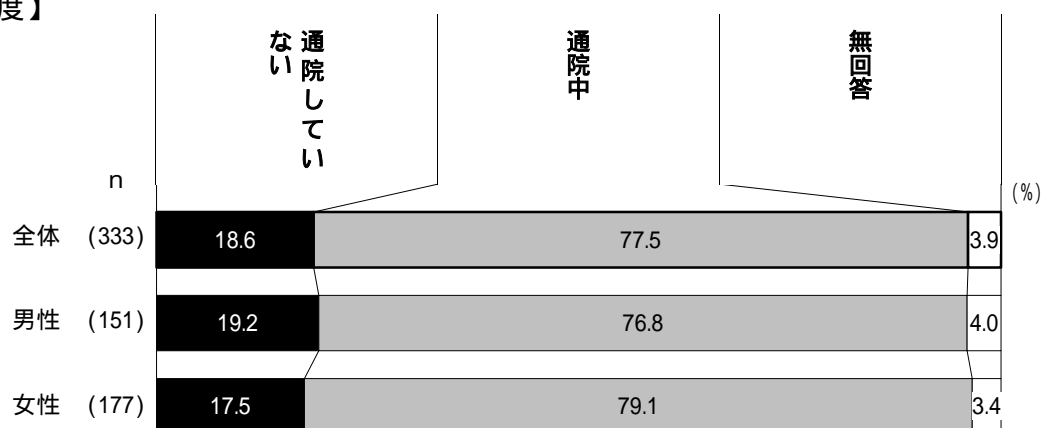
(問11-3で、「1 治療する(している)」とお答えの方に)

問11-3-1 治療の状況についてうかがいます。

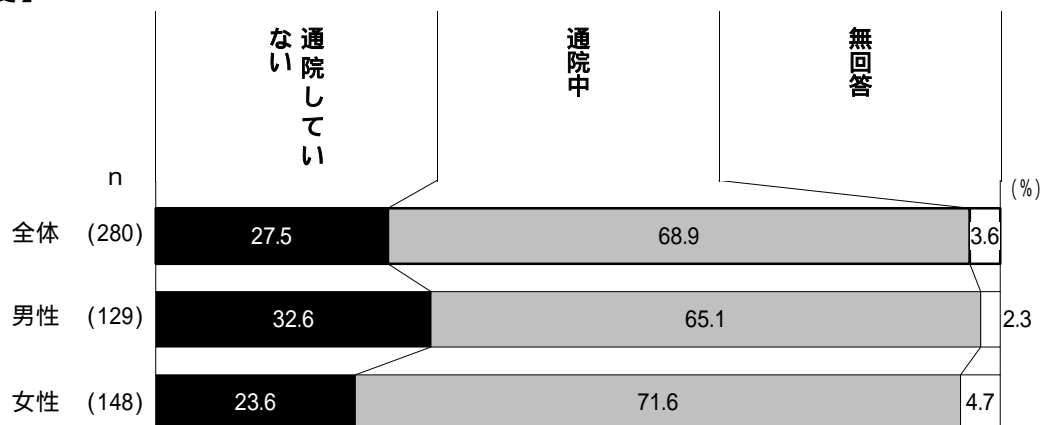
(1) 通院していますか。( は1つだけ)

<図表 - 1 - 32> 通院の有無

【平成19年度】



【平成14年度】



問11-3で、「治療する(している)」と回答した人に通院の有無を聞いたところ、「通院していない」(18.6%)が約2割で、「通院中」(77.5%)が約8割となっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

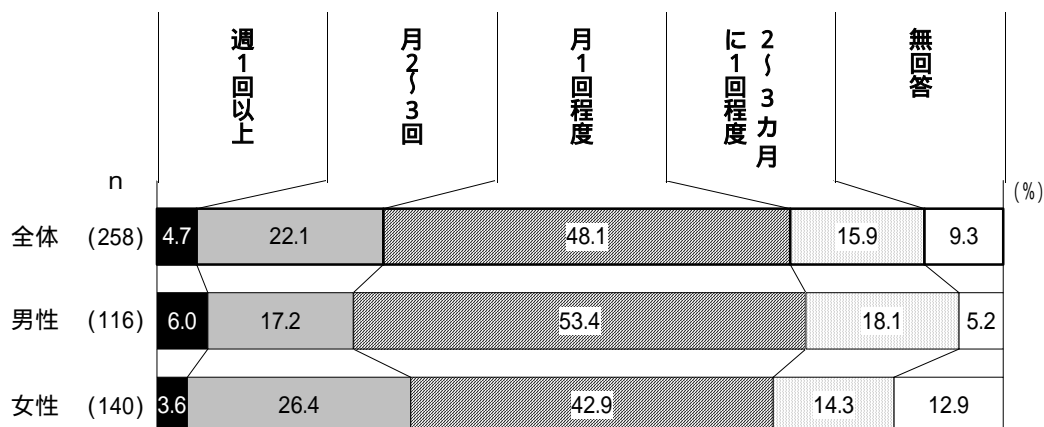
平成14年度と比較すると、全体では、「通院していない」は9ポイント減少し、「通院中」が9ポイント増加している。性別では、「通院していない」は男性で13ポイント、女性で6ポイント減少し、逆に、「通院中」が男性で12ポイント、女性で8ポイント増加している。(図表 - 1 - 32)

## 通院頻度

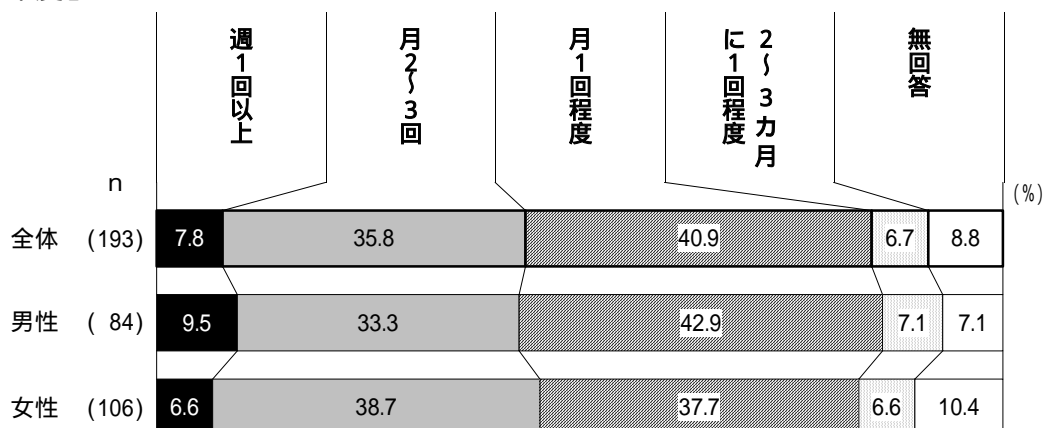
「月1回程度」が約5割で最も高い

<図表 - 1 - 33> 通院頻度

【平成19年度】



【平成14年度】



問11 - 3 - 1 (1) で、「通院中」と回答した人に通院頻度を聞いたところ、「月1回程度」(48.1%) が約5割で最も高く、「月2~3回」(22.1%) が2割を超え続く。

性別でみると、「月1回程度」は男性の方が女性よりも11ポイント高く5割台半ばとなっている。逆に、「月2~3回」は女性の方が9ポイント高く2割台半ばである。

平成14年度と比較すると、全体では、「月2~3回」が14ポイント減少している。逆に、「月1回程度」は7ポイント、「2~3カ月に1回程度」は9ポイント増加している。性別では、男女とも全体と同様に、「月2~3回」が減少し、「月1回程度」と「2~3カ月に1回程度」が増加している。その中で、10ポイント以上変化したものを列挙すると、「月2~3回」が男性で16ポイント、女性で12ポイント減少し、「月1回程度」と「2~3カ月に1回程度」が男性で11ポイント増加している。(図表 - 1 - 33)

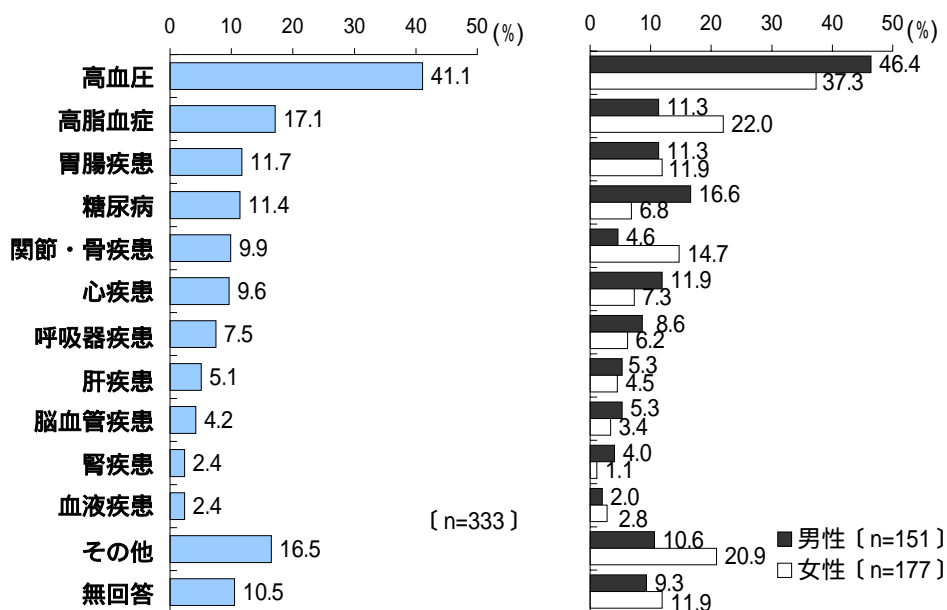
(15) かかっている病気の種類

「高血圧」が4割を超え突出。続く「高脂血症」が約2割

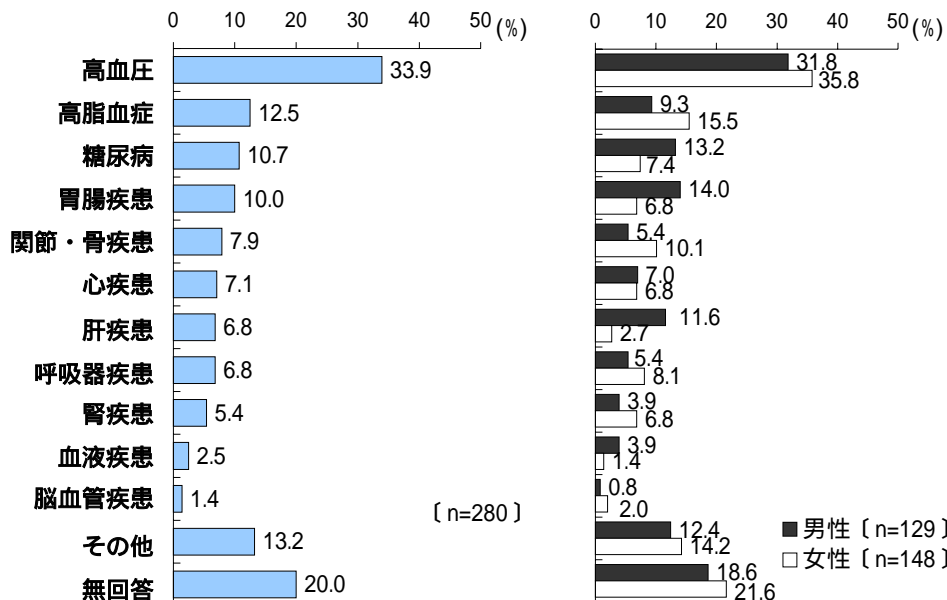
(2) かかっている病気の種類は何ですか。(はいいくつでも)

<図表 - 1 - 34> かかっている病気の種類

【平成19年度】



【平成14年度】



問11 - 3で、「治療する(している)」と回答した人にかかっている病気の種類を聞いたところ、「高血圧」(41.1%)が4割を超え最も高くなっている。次いで、「高脂血症」(17.1%)が約2割である。このほか、「胃腸疾患」(11.7%)、「糖尿病」(11.4%)、「関節・骨疾患」(9.9%)が1割前後となっている。

性別で差が目立つものをあげると、男性の方が女性よりも高いものには、「糖尿病」の10ポイント、「高血圧」の9ポイント、「心疾患」の5ポイント差などがある。逆に、女性が高いのは、「高脂血症」の11ポイント、「関節・骨疾患」の10ポイント差などである。

平成14年度と比較すると、全体では、「高血圧」が7ポイント、「高脂血症」が5ポイント増加している。性別では、男性では「高血圧」が15ポイント、「心疾患」が5ポイント増加している。一方、女性では、「高脂血症」が7ポイント、「関節・骨疾患」と「胃腸疾患」が、それぞれ5ポイント増加している。(図表 - 1 - 34)

なお、今回の調査では、性別によって比率の高い順が比較的異なっており、男女の上位5項目を整理すると、次のようになる。ただし、「その他」と「無回答」は除いている。(図表 - 1 - 35)

<図表 - 1 - 35> 性別順位表(上位5項目)

	男性	%		女性	%
第1位	高血圧	46.4	第1位	高血圧	37.3
第2位	糖尿病	16.6	第2位	高脂血症	22.0
第3位	心疾患	11.9	第3位	関節・骨疾患	14.7
第4位	高脂血症	11.3	第4位	胃腸疾患	11.9
	胃腸疾患	11.3			
第5位	呼吸器疾患	8.6	第5位	心疾患	7.3

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 36 > (11項目)

(%)

		n	高血圧	高脂血症	胃腸疾患	糖尿病	関節・骨疾患	心疾患	呼吸器疾患	肝疾患	脳血管疾患	腎疾患	血液疾患	
性 / 年齢別	男性	20歳未満	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
		20歳代	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	
		30歳代	10	-	-	20.0	-	-	-	-	30.0	-	-	
		40歳代	13	53.8	15.4	-	7.7	-	7.7	-	-	-	7.7	
		50歳代	26	50.0	11.5	15.4	7.7	-	11.5	7.7	7.7	-	7.7	
		60歳代	53	47.2	15.1	9.4	22.6	3.8	13.2	3.8	3.8	5.7	1.9	3.8
		70歳代	37	48.6	8.1	10.8	24.3	-	13.5	16.2	2.7	13.5	5.4	2.7
		80歳以上	9	66.7	11.1	22.2	11.1	55.6	22.2	11.1	-	-	-	-
	女性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	11	-	-	-	9.1	-	-	-	-	-	-	9.1
		40歳代	21	4.8	4.8	-	4.8	-	-	-	9.5	-	4.8	4.8
		50歳代	26	46.2	19.2	11.5	3.8	7.7	3.8	7.7	-	-	-	-
		60歳代	47	40.4	29.8	6.4	10.6	10.6	6.4	6.4	-	4.3	-	2.1
		70歳代	55	45.5	27.3	18.2	7.3	25.5	10.9	10.9	9.1	3.6	1.8	1.8
80歳以上		16	56.3	25.0	31.3	-	31.3	18.8	-	6.3	12.5	-	6.3	

「その他」と「無回答」は紙面の都合上、省略している。  
 男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。  
 図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

nが30人を確保できた層（男女の60歳～70歳代）について述べることにする。男性の60歳～70歳代では「高血圧」が約5割と高く、「糖尿病」がおおむね2割台半ば、「心疾患」が1割台半ばとなっている。また、男性の70歳代では、「呼吸器疾患」と「脳血管疾患」も1割台半ばとなっている。一方、女性では、「高血圧」が70歳代で4割台半ば、60歳代で4割と男性の同世代に比べて低いが、逆に、「高脂血症」については、60歳～70歳代で約3割と男性の同世代に比べて高くなっている。このほか、70歳代は「胃腸疾患」、「関節・骨疾患」、「心疾患」、「呼吸器疾患」で60歳代に比べて高い。(図表 - 1 - 36)

【健康状態（主観的）別・健康に関する関心度別】

< 図表 - 1 - 37 > (11項目)

(%)

		n	高血圧	高脂血症	胃腸疾患	糖尿病	関節・骨疾患	心疾患	呼吸器疾患	肝疾患	脳血管疾患	腎疾患	血液疾患
健康状態（主観的）別	非常に健康である	3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-
	まあ健康である	97	44.3	14.4	11.3	10.3	6.2	4.1	8.2	1.0	2.1	3.1	3.1
	普通	154	37.7	18.2	9.7	7.8	9.7	9.7	5.8	5.2	1.9	-	3.2
	健康ではない	73	42.5	19.2	17.8	19.2	16.4	16.4	11.0	11.0	11.0	6.8	-
健康に対する関心度別	非常に関心がある	145	48.3	19.3	17.9	10.3	12.4	11.7	9.7	6.9	7.6	2.1	4.1
	まあ関心がある	158	34.8	13.9	5.7	12.7	8.2	8.2	5.7	3.2	1.9	1.9	0.6
	どちらともいえない	23	47.8	26.1	13.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	-	8.7	4.3
	あまり関心がない	3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-
	全く関心がない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表頭（＝縦書き部分）の「その他」と「無回答」は紙面の都合上、省略している。また、表側（＝横軸部分）の『健康状態（主観的）別』の“その他”も分析を明確にするため省略している。  
この分析では、試みとして人数の少ない層についても記述している。

後述する『問13 健康状態（主観的）』の回答別でみると、「高血圧」を除き“健康ではない”人の比率が最も高くなっているが、「高血圧」だけは“まあ健康である”人の比率が4割台半ばと最も高く、僅差で“健康ではない”人が続いている。

『問15 健康に対する関心度』の回答別でみると、「高血圧」、「高脂血症」、「胃腸疾患」などでは、“非常に関心がある”か“どちらともいえない”と回答している人で高くなっている。（図表 - 1 - 37）

## (16) 健康診断を受診しない理由

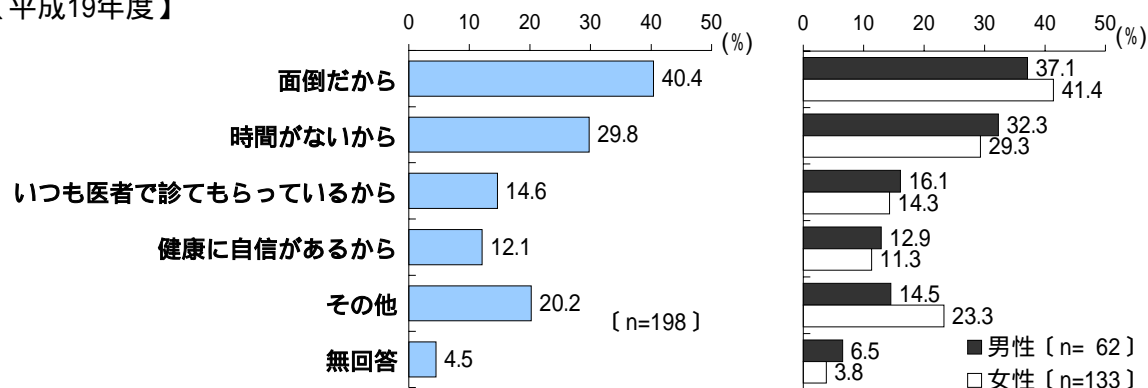
「面倒だから」が4割で最も高く、次いで「時間がないから」が約3割

(問11-1で、「3 ほとんど受けていない」とお答えの方に)

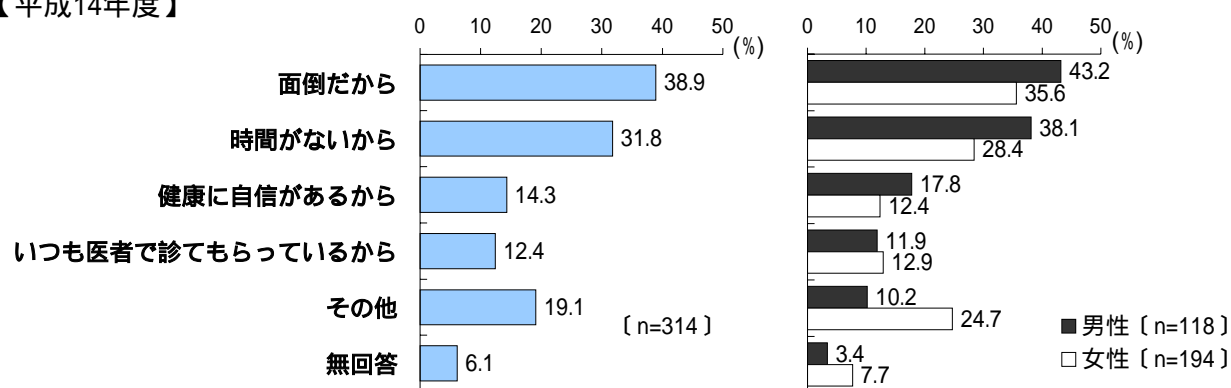
問11-4 健康診断を受けていない理由は何ですか。(はいくつでも)

<図表 - 1 - 38> 健康診断を受診しない理由

【平成19年度】



【平成14年度】



問11-1で、健康診断を「ほとんど受けていない」と回答した人の理由としては、「面倒だから」(40.4%)が4割で最も高く、次いで「時間がないから」(29.8%)が約3割となっている。また、「その他」(20.2%)も比較的高くなっており、その内容には、「費用がかかる」や「機会がない」などがある。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では特に大きな違いはみられないが、性別では、「面倒だから」が男性で6ポイント減少している反面、女性では6ポイント増加している。また、「時間がないから」も男性で6ポイント減少している。(図表 - 1 - 38)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 39 > (全項目)

(%)

		n	面倒だから	時間がないから	いつも医者で診てもらっているから	健康に自信があるから	その他	無回答	
性 / 年齢別	男性	20歳未満	3	100.0	-	-	33.3	-	-
		20歳代	9	55.6	44.4	-	11.1	33.3	-
		30歳代	8	50.0	62.5	-	-	12.5	-
		40歳代	4	-	100.0	-	-	-	-
		50歳代	9	55.6	33.3	11.1	11.1	11.1	11.1
		60歳代	16	31.3	18.8	31.3	18.8	6.3	6.3
		70歳代	11	9.1	9.1	27.3	18.2	27.3	9.1
		80歳以上	1	-	-	-	-	-	100.0
	女性	20歳未満	1	-	-	-	-	100.0	-
		20歳代	8	37.5	37.5	-	-	37.5	-
		30歳代	39	<u>43.6</u>	<u>30.8</u>	<u>2.6</u>	<u>5.1</u>	38.5	2.6
		40歳代	23	52.2	39.1	13.0	21.7	17.4	-
		50歳代	30	46.7	36.7	10.0	16.7	6.7	6.7
		60歳代	23	34.8	13.0	30.4	4.3	21.7	8.7
		70歳代	5	20.0	-	60.0	20.0	-	-
80歳以上		4	-	25.0	50.0	25.0	25.0	-	

男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。また、最も比率の低い層は、数値の先頭に - を付け、下線を施した。

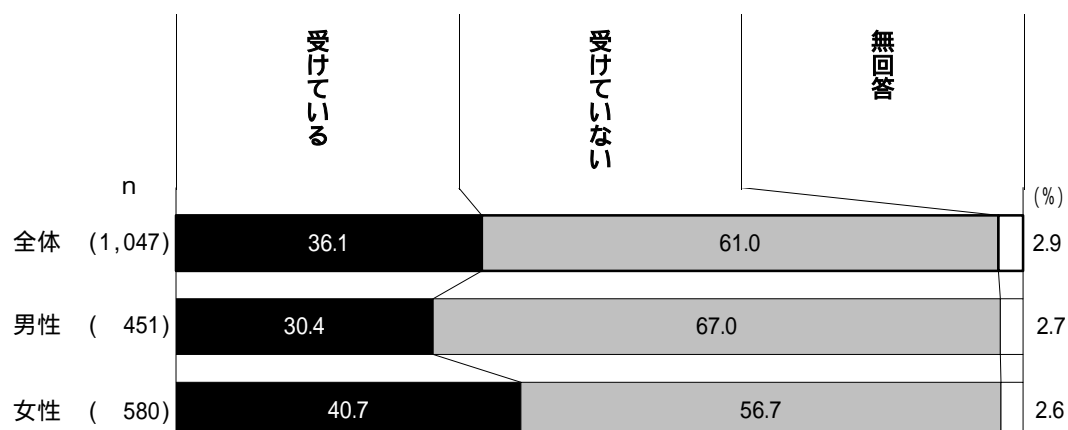
nが30人を確保できた層（女性の30歳代、50歳代）について述べることにするが、女性の30歳代と50歳代ともに、「面倒だから」と「時間がないから」に比率が集中し、特に、「面倒だから」は4割台半ば前後となっている。また、「健康に自信があるから」と「いつも医者で診てもらっているから」では、30歳代と50歳代との差が大きい。（図表 - 1 - 39）

## (17) 定期的ながん検診受診の有無

「受けている」は3割台半ば。一方、「受けていない」が6割を超え高い

問12 - 1 あなたは、定期的ながん検診を受けていますか。( は1つだけ)

< 図表 - 1 - 40 > 定期的ながん検診受診の有無



定期的ながん検診受診の有無では、「受けている」(36.1%)が3割台半ばで、「受けていない」(61.0%)が6割を超え高くなっている。

性別で見ると、「受けている」は女性の方が男性よりも10ポイント高く4割となっている。逆に、「受けていない」は男性の方が10ポイント高く約7割である。(図表 - 1 - 40)

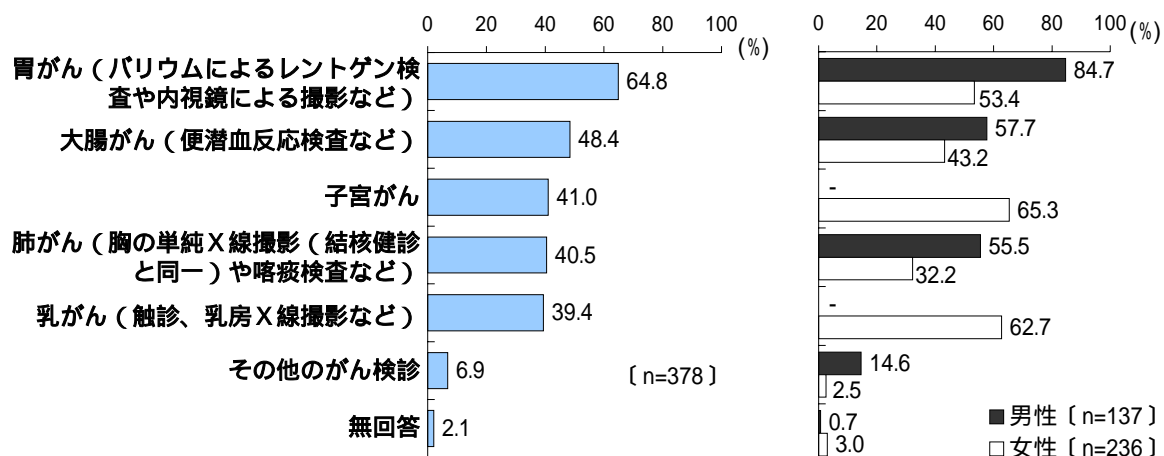
(18) 受診したがん検診の種類

「胃がん」が6割台半ばで最も高い

(問12-1で、「1 受けている」とお答えの方に)

問12-2 どのがん検診を受けましたか。(はいいくつでも)

<図表 - 1 - 41> 受診したがん検診の種類



問12-1で、がん検診を「受けている」と回答した人に受診したがん検診の種類を聞いたところ、「胃がん (バリウムによるレントゲン検査や内視鏡による撮影など)」(64.8%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「大腸がん (便潜血反応検査など)」(48.4%)が約5割である。

性別で見ると、男女ともに受診できる検診は男性の方が女性よりも高く、順に列挙すると、「胃がん (バリウムによるレントゲン検査や内視鏡による撮影など)」で31ポイント、「肺がん (胸の単純X線撮影 (結核健診と同一) や喀痰検査など)」で23ポイント、「大腸がん (便潜血反応検査など)」で15ポイント差がある。

一方、女性のみ受診する検診については、「子宮がん」(65.3%)と「乳がん (触診、乳房X線撮影など)」(62.7%)とともに、女性の6割台半ば前後となっている。(図表 - 1 - 41)

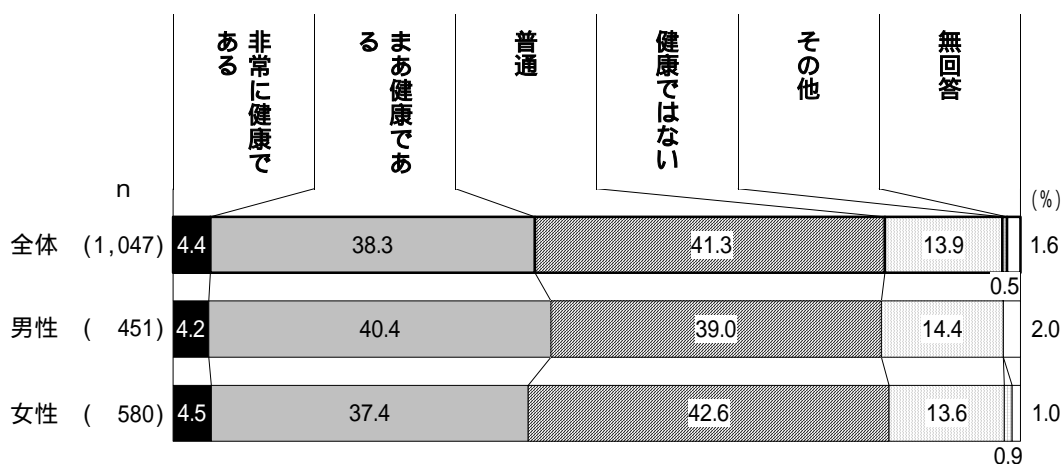
(19) 健康状態 (主観的)

《健康である》が4割を超える一方で、「健康ではない」が1割台半ば

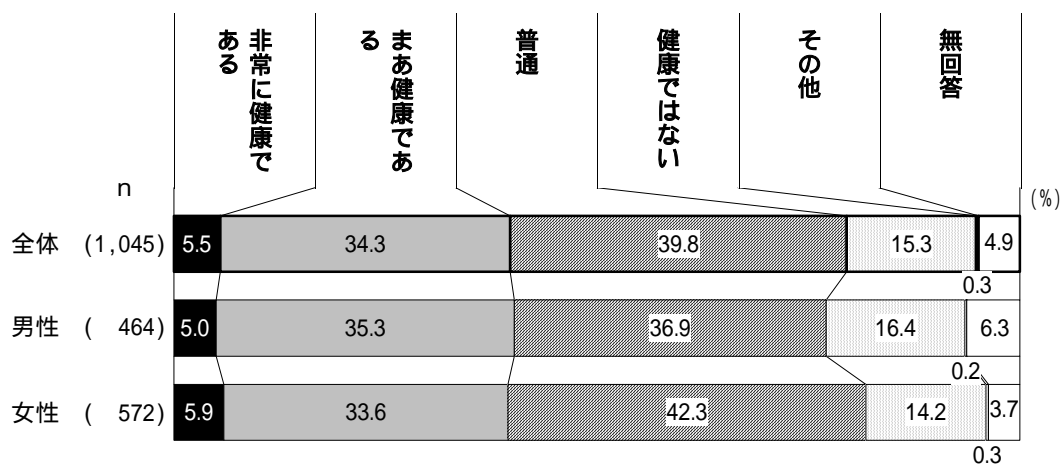
問13 あなたは、自分が健康であると思いますか。( は1つだけ)

< 図表 - 1 - 42 > 健康状態 (主観的)

【平成19年度】



【平成14年度】



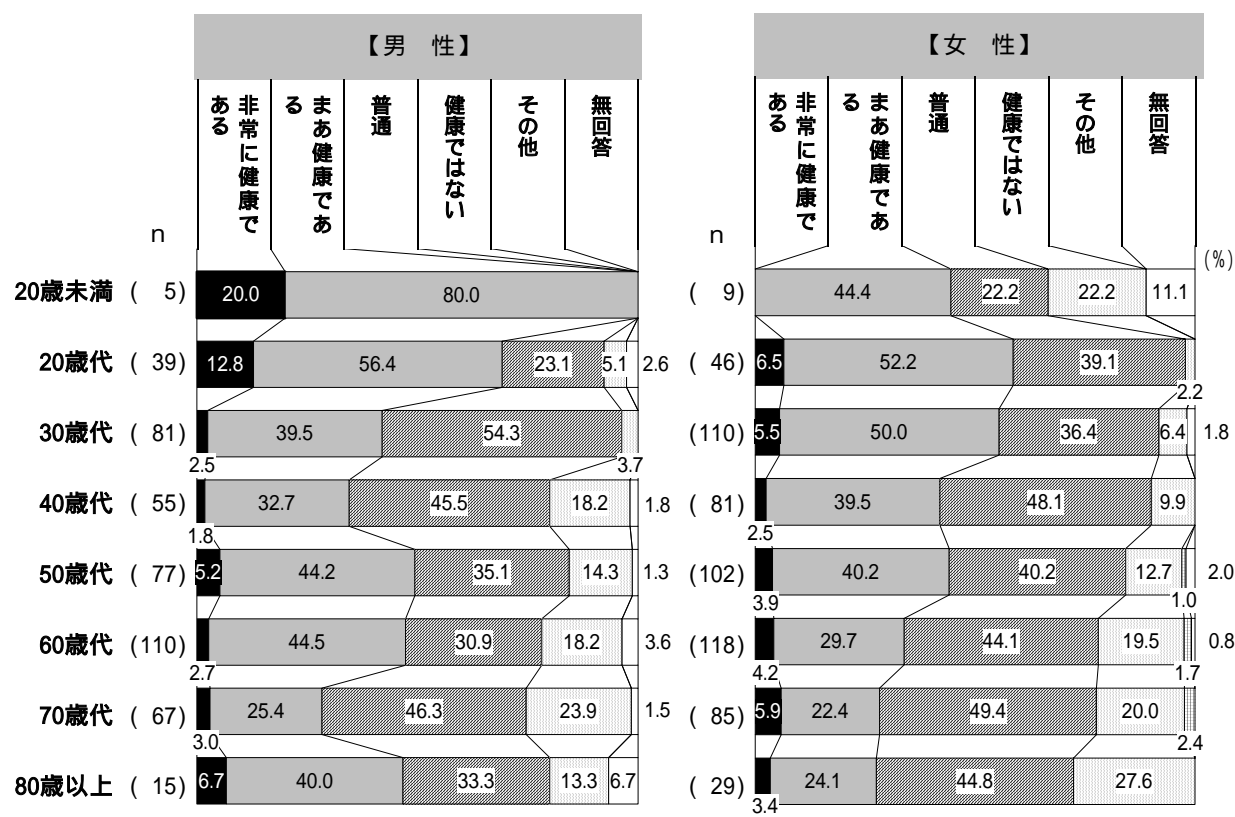
現在の健康状態(主観的)としては、「非常に健康である」(4.4%)は1割に満たないながらも、「まあ健康である」(38.3%)が約4割で、これらを合わせると《健康である》(42.7%)は4割を超える。また、「普通」(41.3%)も4割を超え比較的高い。その一方で、「健康ではない」(13.9%)が1割台半ばとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体、性別ともに《健康である》が若干増加しているものの、特に大きな違いはみられない。(図表 - 1 - 42)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 43 >



男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

男性では、《健康である》が20歳代で約7割と最も高く、50歳～60歳代で約5割と続く。30歳代については、「普通」が5割台半ばと高くなっている。逆に、「健康ではない」は70歳代で2割台半ばと高い。一方、女性では、《健康である》は、20歳代で約6割、30歳代で5割台半ばと高く、それ以降おおむね年齢が上がるほど漸減する傾向がみられる。「普通」は40歳代と70歳代で約5割と高く、また、「健康ではない」は年齢が上がるほど漸増して70歳代で2割となる。(図表 - 1 - 43)

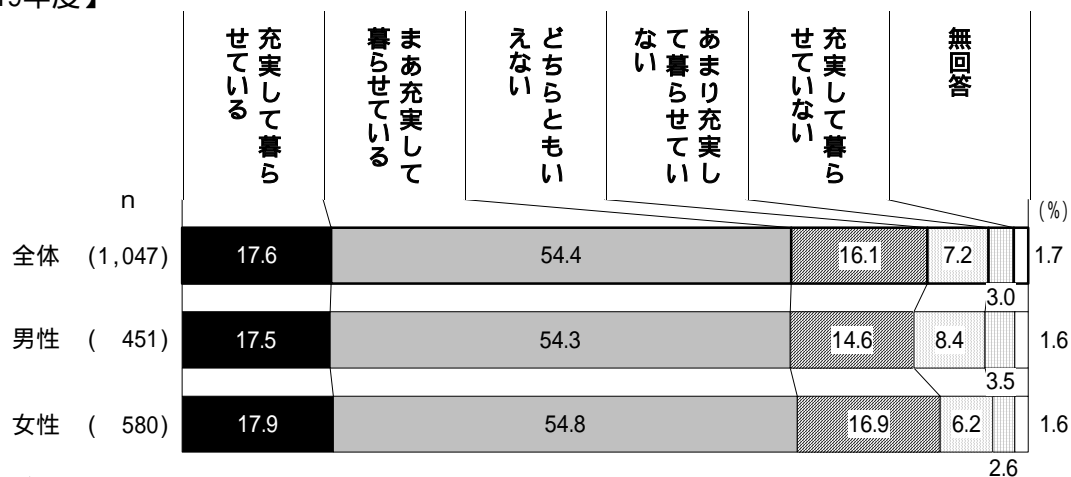
(20) 日常生活の充実度

《充実して暮らせている》は7割を超える。一方、《暮らせていない》は1割

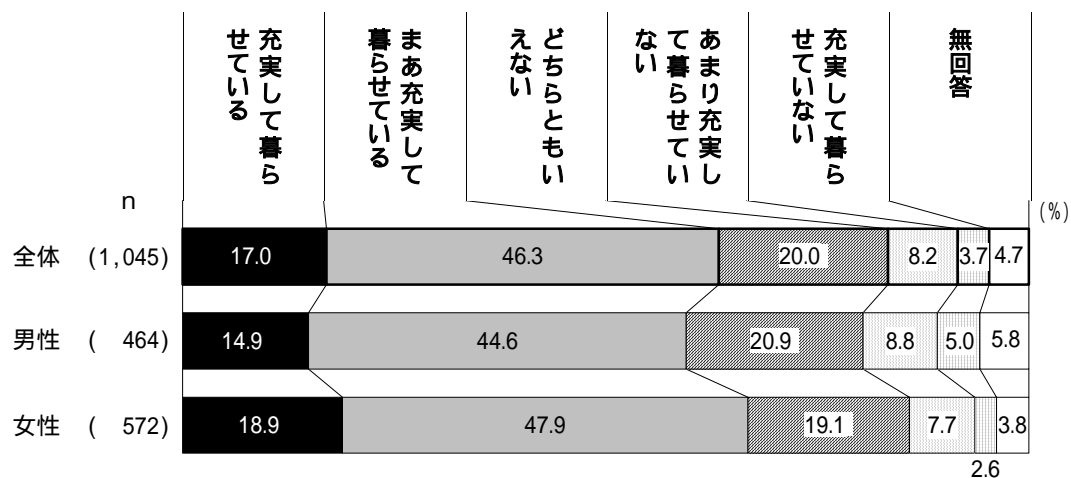
問14 あなたは、毎日を充実して暮らせていると思いますか。( は1つだけ)

< 図表 - 1 - 44 > 日常生活の充実度

【平成19年度】



【平成14年度】



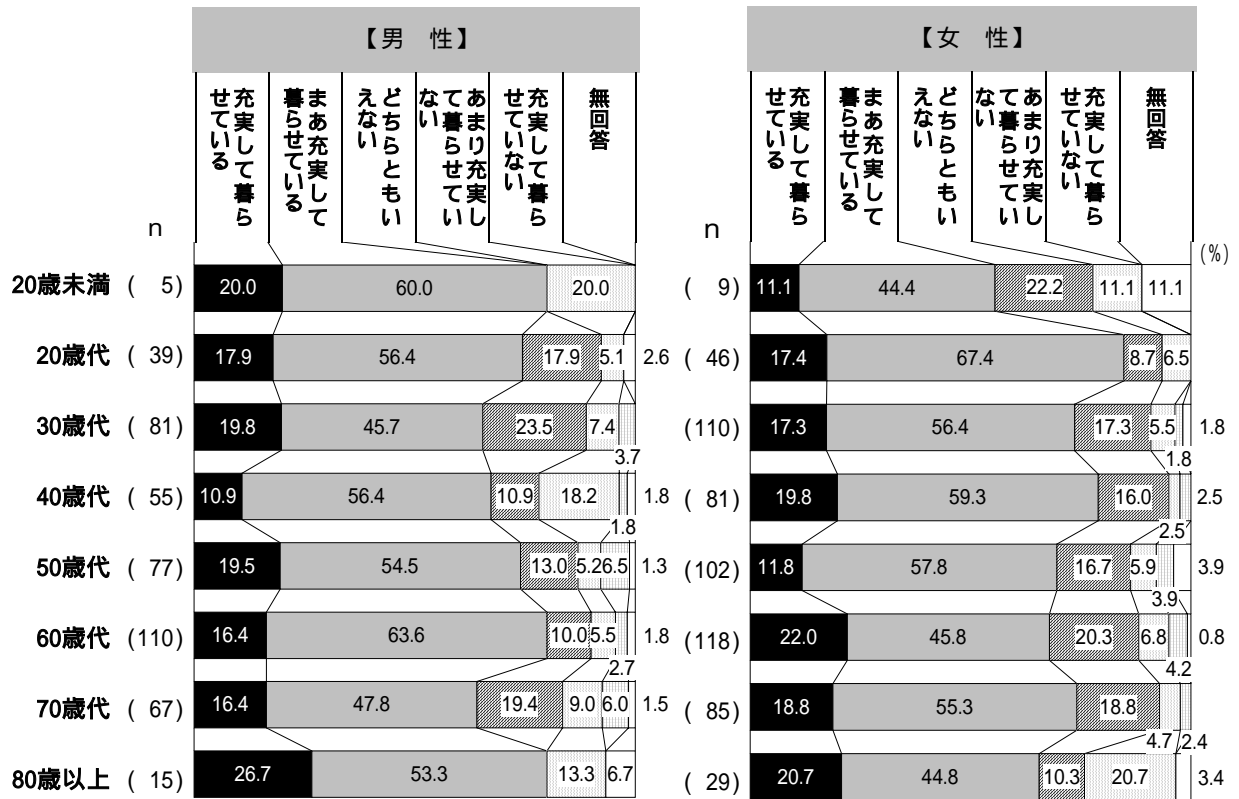
日常生活の充実度では、「充実して暮らせている」(17.6%)が約2割だが、「まあ充実して暮らせている」(54.4%)は5割台半ばと高い。これらを合わせると、《充実して暮らせている》(72.0%)が7割を超える。一方、「どちらともいえない」(16.1%)は1割台半ばで、「あまり充実して暮らせていない」(7.2%)と「充実して暮らせていない」(3.0%)を合わせた《充実して暮らせていない》(10.2%)は1割である。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では、《充実して暮らせている》が9ポイント増加し、性別では、《充実して暮らせている》が男性で12ポイント、女性で6ポイント増加している。また、男性では「どちらともいえない」が6ポイント減少している。(図表 - 1 - 44)

【性 / 年齢別】

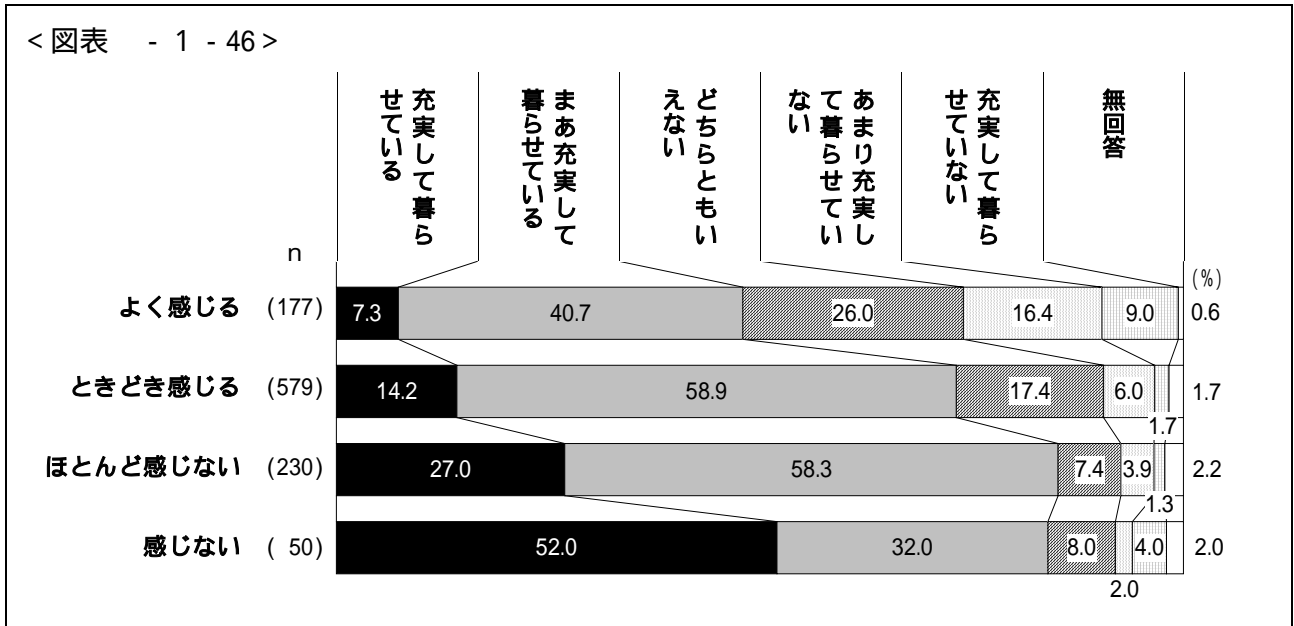
< 図表 - 1 - 45 >



男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

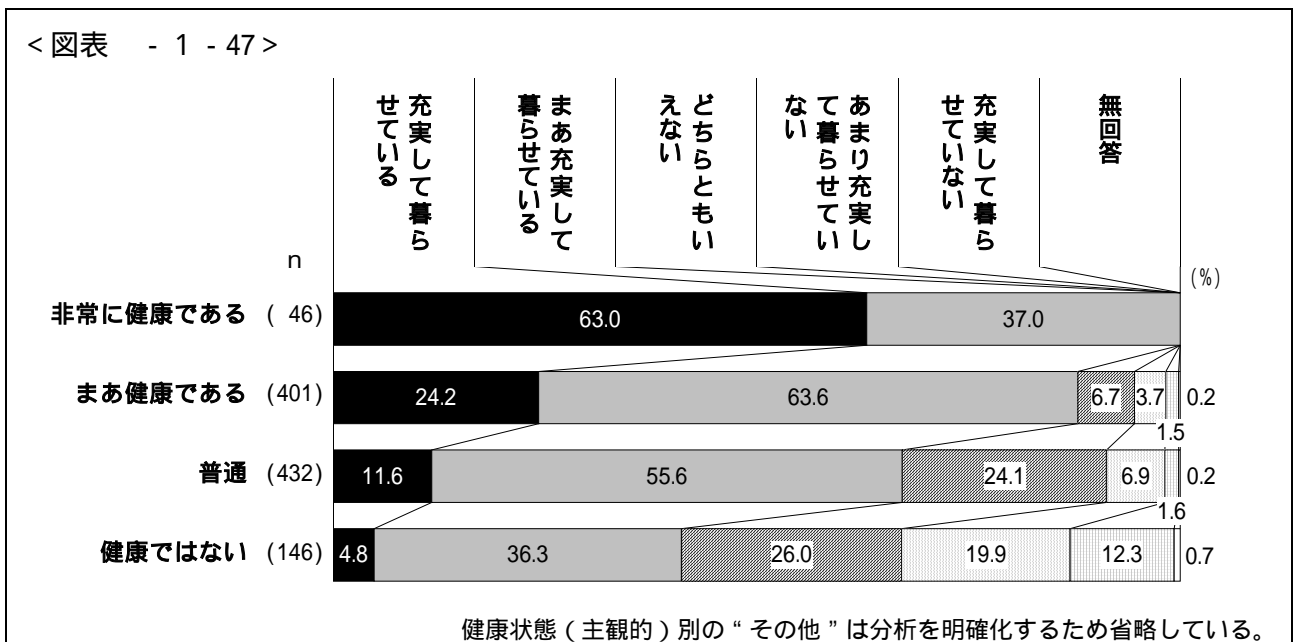
男性では《充実して暮らしている》が60歳代で8割と最も高くなっている。逆に、《充実して暮らさせていない》は40歳代が2割である。一方、女性では、《充実して暮らしている》は20歳代で8割台半ばと最も高く、40歳代で約8割と続く。(図表 - 1 - 45)

【健康への不安感別】



『問8 - 1 健康への不安感』の回答別でみると、“不安を感じない”人ほど「充実して暮らしている」としており、逆に、“不安を感じる”人ほどおおむね充実度が低い傾向がみられる。(図表 - 1 - 46)

【健康状態(主観的)別】



『問13 健康状態(主観的)』の回答別でみると、“健康である”人ほど《充実して暮らしている》と回答している。逆に、“健康ではない”人ほど充実度が低い。(図表 - 1 - 47)